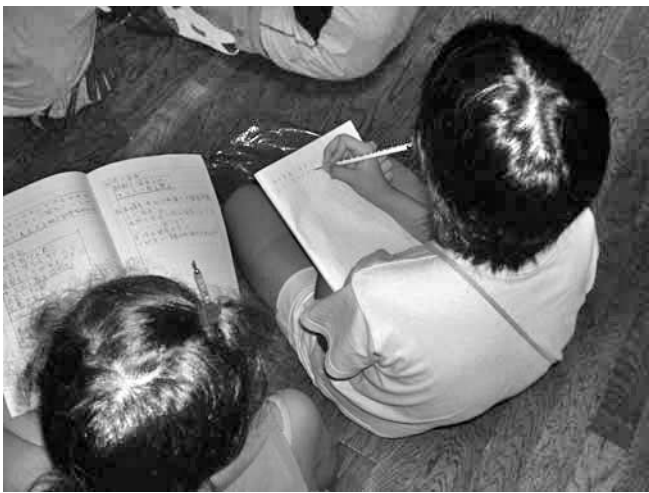


6年生	教科：社会	単元名：戦国の世は、どう統一されたの	6月～9月	7時間
実践校：長崎市立桜町小学校		授業担当者：米村郁子・岡田要・林田和徳		
目 標	<p>○ヨーロッパ人の来航によるキリスト教などの伝来、信長・秀吉・家康の天下統一について調べて、戦国の世が統一されたことを理解させる。(理解)</p> <p>○戦国の世の中を統一していった信長・秀吉・家康等の人物の動きに関心を持ち、意欲的に調べる活動を通して、歴史や伝統を大切にする心情と世界の中の日本人としての自覚をもとうとする態度を育てる。(態度)</p> <p>○我が国の歴史や伝統の意味について考え、適切に判断できるようにする。また、国のあゆみの調べ方を考えさせる。</p> <p>○年表・歴史地図・伝承・人物の逸話・人物や文化遺産に関する写真・その他の歴史的資料を効果的に活用して、社会事象を時間的・歴史的にとらえ、具体的に表現する能力の基礎を養う。(能力)</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○戦国の世の中の様子について話し合い、どのようにして天下が統一されていたのか問題意識をもつ。 ○課題に対して予想し、調べる計画を立てる。	1	○長篠合戦図屏風や姫路城の写真資料、外国船来港の資料から、当時の戦の様子や戦国時代の様子についてとらえさせ、どのように天下を統一していったのか意欲的に調べる意欲をもたせる。 ○課題に対して自分たちの予想や調べる計画を話し合わせる。	評価基準 (2)	
○織田信長について調べる	1	○信長が室町幕府を滅ぼし、他の大名にさきがけて天下統一の基礎を築いたことをとらえさせる。 ○信長の気性や行動などの説話から、信長の人物像に迫るとともに、商工業の保護やキリスト教に対する考え方など信長のとった政策について調べさせる。	評価基準 (1) (2) (3)	
○豊臣秀吉について調べる	1	○秀吉は、低い身分の武士の子であったが、信長に仕え、次第に有力な武将になっていったことをとらえさせる。 ○検地・刀狩については、その内容を理解させるとともに、令文から一揆をおさえ、年貢を確実にとり、兵農を分離するというねらいがあったことに気付かせる。	評価基準 (1) (2) (3)	
○徳川家康について調べる	1	○2度にわたる朝鮮への侵略により、朝鮮の人々が苦しみ、国土が荒らされたことをとらえさせる。 ○朝鮮侵略と日本の陶磁器(有田焼)の関係についてもふれる。 ○家康は、三河(愛知県)の小さな大名の家に生まれ、少年時代を織田氏、今川氏の人質として過ごしたが、信長と同盟を結び、次第に勢力を広げていったことをとらえさせる。 ○秀吉の死後、関ヶ原の戦いで勝利した後、江戸に幕府を開いた。また、江戸城を中心に江戸の町の開発に力を入れたことをとらえさせる。	評価基準 (1) (2) (3)	

<p>○信長・秀吉・家康による天下統一の過程についてまとめる。</p> <p>○当時の長崎の様子について調べる。</p>	2	<p>○家康は、朝鮮との国交を回復させ、使節を受け入れたが、キリスト教は禁止したことをとらえさせる。</p> <p>○信長・秀吉・家康について調べてきたことをもとに3人の武将による天下統一の過程についてまとめさせる。</p> <p>○歴史文化博物館に見学に行き、南蛮図屏風や寛文長崎図屏風、長崎惣町絵図などの資料から長崎の様子を知る。</p>	評価基準(3)
評価基準	<p>○戦国の世は、信長・秀吉・家康によって天下統一の仕事が進められていったことを理解することができる。(理解)</p> <p>○戦国の世の中を統一していった信長・秀吉・家康等の人物が行った諸政策について関心をもち、意欲的に調べていくことができる。(態度)</p> <p>○天下統一におけるヨーロッパ文化の役割、検地・刀狩と農民支配の関係とその影響などについて考えることができる。(能力)</p> <p>○戦国時代の大名配置図や安土城の様子、大阪城の様子や刀狩、検地についての資料、関ヶ原の戦いの様子などの資料を効果的に活用し、その成果を具体的に表現することができる。(能力)</p>		

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



%学習のめあて
 (例)ポルトガル人や中国人が来航した
 ころの長崎の様子を調べよう。

%わかったこと
 (例)南蛮びょうぶ

- ・ポルトガルはスペイン
- ・徳川家康の時代
- ・サントトミンゴ教会と同じころ
- ・スボンがうつくしく入っている
 →ヨーロッパのはやり
- ・日本人より南蛮人が多い。
- ・胸にじゅうじかのロザリオ
 (日本人)

＜発見＞長崎団びょうぶ

- ・出島がえがかれている。
- ・日本人がたくさん。
- ・行列がつづいていいる。
- ・すわ神社がえがかれている。
- ・おくんちをえがいている。
- ・中国人が作った、とうでう
- ・手ん中に中島川。
- ・中国人、柳タム

%学習のめあて
 (例)ポルトガル人や中国人が来航した
 ころの長崎の様子を調べよう。

%わかったこと
 (例)南蛮びょうぶ

- ・ポルトガルはスペイン
- ・徳川家康の時代
- ・サントトミンゴ教会と同じころ
- ・スボンがうつくしく入っている
 →ヨーロッパのはやり
- ・日本人より南蛮人が多い。
- ・胸にじゅうじかのロザリオ
 (日本人)

＜発見＞長崎団びょうぶ

- ・出島がえがかれている。
- ・日本人がたくさん。
- ・行列がつづいていいる。
- ・すわ神社がえがかれている。
- ・おくんちをえがいている。
- ・中国人が作った、とうでう
- ・手ん中に中島川。
- ・中国人、柳タム

(大航海時代)
 南蛮貿易…長崎港の開港(1571)

||
 ポルトガル人
 スペイン人

輸入…砂糖、生糸、布
 輸出…銀、鉄、びょうぶ、刀

長崎のまち
 南蛮人…カピタン=モール(職名)
 黒人…従者
 スボン…カルサン } ロザリオ=モール
 えり…ひたえり }
 マント、くつ、くつ下 }
 はたし } 袴
 検を持たない }
 宣教師…キリスト教を広める
 教会=南蛮寺
 長崎の人…キリスト信者が多い。
 長崎のまちはローマのようだ。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

〈活動の目的〉

1学期に信長・秀吉・家康によって天下統一がされていった過程を学習し、2学期の初めに見学を行った。見学の目的は、南蛮貿易で栄えた頃や、信長・秀吉・家康の頃の長崎の様子を知ることと、2学期の歴史学習への意欲を高めることであった。

〈活動の実際と成果〉

1. 南蛮人来朝之図

- ・この資料は南蛮貿易の場面であることから描かれている外国人がポルトガル人やスペイン人であることがわかり、貿易で栄えていることがわかった。
- ・絵の中に教会があり、首にロザリオをかけている武士がいることやロザリオを売っている店があることからキリスト教が自由に信仰できていた時代であることが理解できた。

2. 寛文長崎図屏風

- ・この資料は1673年頃の長崎が描かれており、くんちの行列やオランダ商館員などが描かれている。この頃には、出島ができあがっており、外国人は自由に歩くことができなかったことや、描かれている外国人がオランダ人であることを確かめることができた。

3. 長崎惣町絵図

長崎の町のでき方を学習することができた。



この3つの資料を通して南蛮貿易が盛んな頃はキリスト教を自由に信仰することができていたが、次第にキリスト教に対する弾圧が始まり、長崎の町に寺や神社が多いのはキリスト教が広まることを防ぐためであることを理解することができた。

〈終わりに〉

今回の見学時間は1時間を予定しており、そのほとんどを資料の説明に費やした。数多くある資料の中から学習の目的に合ったものを選ぶことは難しいことであり、この3つを重点的に扱ったことは学習の焦点化ができなかった。事前に博物館に出向いてこちらの学習の目的を伝えることで、目的に沿った資料を子ども達に分かりやすく説明していただくことができ当初の目的を達成することができた。

6年生	教科：社会	単元名：江戸時代の長崎	1月	4時間
実践校：長崎市立晴海台小学校		授業担当者：梅林一城		
目標	為政者のキリスト教弾圧の様子、踏み絵の様子を理解する。 長崎版画を体験する。			
	学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
	1 歴史学習をふり返り、見学のめあてを立てる。	1	○ 学習場所を長崎歴史文化博物館に移動し、本物に触れる機会を設定する。	
	2 博物館見学を通して、本物に触れ当時の様子を体験する。	2	○ スタッフから説明を聞く活動を通して、禁教令の原因が幕府の方針であったことを捉えさせる。 ○ 踏み絵レプリカに触れる活動を通して、残酷な弾圧の様子を理解できるよう見学コースを設定する。	
	3 見学をふり返り、学習のまとめをする。	1	○ 見学だけではなく、長崎版画を体験する場を設定して博物館のよさを実感させる。 ○ 歴史巻きものに感想を書き、歴史学習のまとめをさせる。	
評価 規 準	(1) 徳川家光が行った大名の統制・身分制度・鎖国政策など、武士の政治を確立したことや町人には文化が栄え、学問が発達したことを理解する。(知識・理解) (2) 家光が行った諸政策、その当時の町人文化や新しい学問に興味をもち、意欲的に調べることができる。(関心・意欲) (3) 町人文化や新しい学問に関する絵や写真などの資料を効果的に活用し、その成果を表現することができる。(資料活用・表現)			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

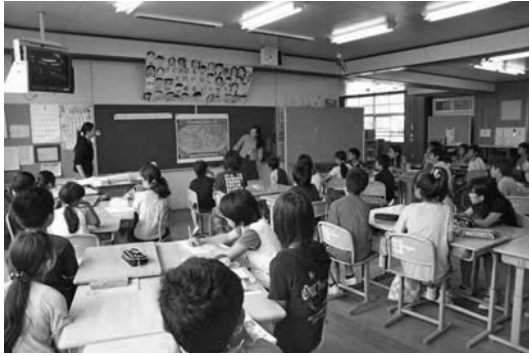


授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- 事前に、博物館の担当者と打ち合わせをすることができた。子どもに何を見せたいのか、何をつかませたいのか等、お互いが博物館を利用する効果を具体的にイメージすることができた。
- 教科書を持ち込み、説明するスタッフに持っていただいて説明をしていただいた。子どもたちは自分が使っている教科書をスタッフが持っていることで、スタッフと子どもの距離が近づいた。
- 短時間の中でのピンポイント説明に効果があった。子どもたちは、日常と異なる場所での学習に大変興味を示し、活動も活発であった。
- 子どもたちは、長崎版画の体験も、どんな作品ができるのかドキドキしながら作業を進めていた。実際に本物に触れる体験とスタッフの説明による具体的な見学は、子どもの理解を深めるために大変有効であった。

6年生	教科：社会	単元名：「南蛮貿易とくらし」	5月	4時間
実践校：長崎市立畝刈小学校		授業担当者：梅林一城		
目標	南蛮貿易による暮らしの変化について知り、これまでの学習と比較しながら、歴史学習に対する認識を広げる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	資料	
1 本時の学習のめあてを確認する。	5分	○これまでの学習を確認するとともに、新たな疑問は質問することを知らせる。 めあて 南蛮貿易で、人々のくらしはどのように変わったのだろう。		
2 研究員の話聞く。	5分	○大航海時代の地図上における日本の位置や形を確認できるようにする。 ① 当時の世界における日本の様子 ② ポルトガルからの航路	当時の世界地図	
3. ポルトガルと日本とのかわりについて知る。	15分	○ポルトガル人が日本を訪れたときの様子を資料から読み取る。 ○持っている人物カードから、気づきを発表する。 ○南蛮文化の内容を理解する。	南蛮人来朝之図 キリスト教の影響 カピタンの様子 貿易品 ポルトガル人の服装	
4. どのような文化やものの交流があったのかを知る。	20分	○貿易品に触れ、色・手ざわり・におい等、五感を通して外国との交流を実感する。	鮫皮 象牙 白コショウ	
日本は、この時代に初めてヨーロッパと交流するようになった。キリスト教をはじめとする様々なものがもたらされ、現在の生活に溶け込んでいるものもたくさんある。				
評価基準	① 南蛮貿易に関心をもち、新しい発見をまとめ自分の考えを発信しようとする（関心・意欲・態度） ② 研究員の説明から、感じたことや体験したことを地図と結びつけながら、南蛮文化のイメージをとらえる。（資料活用・技能表現）			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



6年生	教科：社会	単元名：地域の歴史を伝えるもの	4月	4時間
実践校：西海市立瀬戸小学校（実践案）		授業担当者：福田浩久		
目標	身近な地域に残っている文化財や史料などに触れたり調べたりして、地域の歴史的背景に関心を持つことができる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○教科書の■■■ページを見ながら話し合う。	1	○長崎と関連のある資料（写真）が掲載されているページを見ながら気づきを話し合わせる。 ○日本の歴史と長崎との関連が深いことに気づかせたい。		
○長崎歴史文化博物館を見学する。	2	○歴史を見学し、自分たちが教室で見た史料があることに気づかせる。 ○史料について歴史の方に話を聞くことで、歴史を学ぶ期待感を持たせたい。		
○ふりかえりをする。	1	○ノートに学習の振り返りを書かせ、お互いに話し合わせることで、さらに歴史の学習に興味や関心を持たせたい。		
評価規準	身近な地域に残っている文化財や史料などに触れたり調べたりして、地域の歴史的背景に関心を持つことができたか。			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

構想はありますが、まだ実践していません。

（ごめんなさい…）

似たような実践は、前任校である桜町小学校で行いました。そのときは残念ながら歴史が建設中だったため、桜町小学校の敷地内にある「サントドミンゴ教会跡資料館」を利用しました。

実際に展示物を見たあとに、市文化財課の方に来ていただいてお話を聞きました。

子どもたちは自分たちの身近なところに歴史を伝える場所（もの）があることに驚きを持ち、また歴史の学習に興味を持つことができていました。（もちろん全員ではありませんが）

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

6年の社会科は、1学期の最初から2学期の後半（11月）まで歴史学習が続きます。

「歴史ってなんだかよくわからない」「めんどくさい勉強じゃないの？」「どうせ人の名前とか覚えなきゃいけないでしょ」なんていう子どもたちの考えを払拭し、「歴史ってなんだか楽しそう」「もっといろいろ勉強してみたいな」という気持ちを学習の初めに持たせたいというのが私の狙うところです。

自分の目の前にあるものが、昔の人や昔のくらしとつながっているって何だか不思議だし、楽しいと思いませんか？

6年生	教科：社会	単元名：「徳川の世」は、どんな世の中だったの	9月～10月	11時間
実践校：西海市立瀬戸小学校		授業担当者：福田浩久・深堀昭三		
目標	大名行列や徳川の世のしくみに関心をもち、幕府による身分制度の確立、貿易の取りしまり、町人の文化、新しい学問のおこりについて調べ、身分制度が確立し武士による政治が安定したこと、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことが分かり、国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1. 学習の問題をつかむ	1	○将軍に挨拶する大名の写真や大名の配置図などの資料から、徳川氏と各地の大名との関係について話し合わせる。 徳川氏によって、どんな世の中の中のしくみがつくられたのだろう	I-①	
2. 予想をし、調べる計画を立てる	1	○学習問題に対してそれぞれ予想を立てさせ、それを明らかにするための調べる計画を立てさせる。		
3. 調べる	4	○調べる内容(項目)は次のように大別される。 ・大名の支配 ・身分による支配と人々の生活 ・キリスト教と貿易統制 ・江戸の繁栄と町人文化 ・国学と蘭学 ○調べてわかったこととそこから考えたことを区別しながら各自まとめさせるようにする。	II-① III-①	
4. まとめる	1	○調べたことをもとに、徳川氏の政治について話し合い、まとめをする。	III-② I-② II-② IV-①②	
5. 見学を行い、学習内容を深める(発展)	4	○学習した内容をより深めるために、長崎歴史文化博物館と出島を見学する。		
評価 規 準	<p>I ①大名行列や江戸時代の世の中の中のしくみに関心をもち、意欲的に調べ、考えながら追究している。②調べたことをもとに、とくに身分制度が確立し武士による政治が安定したことなどにいっそう関心を深めている。(社会的事象への関心・意欲・態度)</p> <p>II ①徳川氏によってどんな世の中の中のしくみが作られたのか、学習の問題をもち、見通しをもって追究している。②身分制度が確立し武士による政治が安定し、町人文化が栄えたことについて、国や社会の発展に果たした役割を考え、適切に判断している。(社会的な思考・判断)</p> <p>III ①年表その他の資料を活用して調べている。②調べた過程や結果を、目的に応じた方法で分かりやすく表現している。(観察・資料活用の技能・表現)</p> <p>IV ①江戸幕府は、大名統制に力を注ぐとともに、身分制度を確立し、貿易を統制して武士による政治が安定したことが分かっている。②町人文化が栄え、歌舞伎や浮世絵が人気を集めたこと、また、国学や蘭学などの新しい学問がおこったことが分かっている。(社会事象についての知識理解)</p>			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- 6年社会科、江戸時代の学習の発展として学習したことをより深めさせたいと考え、長崎歴史文化博物館の見学活動を取り入れた。その際、目的をはっきりとさせて見学をさせるようにした。(今回の社会科見学は、江戸時代の学習を深めるため、特に出島を中心とした)
- また、展示されている資料をただ見て回るだけの活動ではなく、私と掛け合いをしながら歴文の加藤さんに話をさせていただいた。こうすることで、より親近感を持って子どもたちは話を聞くことができたと思う。
- 提示する資料の大切さを改めて感じた。今回加藤さんには「長崎港之図」という資料を基に話を進めてもらったが、とても効果的な資料だったと思う。実物の解体新書を見せてもらったときの子どもたちの驚きもよかった。
- 学校から地理的に遠いこともあり(バスで片道約1時間)、それを考慮して歴文での活動をメインに考えた。そのため、午後に出島資料館での学習は時間的にはやや物足りないものとなった。しかし、午前中に歴文で学習していたこともあり、施設をただ見て回るだけの活動にはならなかった。
- 学校行事の都合などあり、まとめの学習と見学との間が少し空いてしまったのが残念だった。

6年生	教科：社会	単元名：歴史って なあに？	4月～	2時間
実践校：西海市立瀬戸小学校（実践案）		授業担当者：福田浩久		
目標	資料を見たり、博物館の方の話を聞いたりすることを通して、これからの歴史学習への意欲・関心をもつとともに、自分たちの暮らしが歴史の上に成り立っていることに気づく。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○博物館の方と出会う。 ○資料を見たり、話を聞いたりする。 ○ふりかえりをする。	2	※博物館から本校に来ていただき、出張授業の形で進めていければと思います。 ○長崎歴史文化博物館の概要やそこでどんな仕事をしているのかなど話してもらおう。 ○できれば、歴史にあまり興味がない子どもたちでも知っているような資料を用意してもらいたい。 ○資料の見方について話していただき、資料からわかることについて話し合わせる。 ○資料について歴文の方に話を聞くことで、歴史を学ぶ期待感を持たせたい。 ○ノートに学習の振り返りを書かせ、お互いに話し合わせることで、さらに歴史の学習に興味や関心を持たせたい。		
評価基準	資料を見たり、博物館の方の話を聞いたりすることを通して、これからの歴史学習への意欲・関心をもつとともに、自分たちの暮らしが歴史の上に成り立っていることに気づくことができたか。			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

6年の社会科では、1学期の最初から2学期まで、長い期間をかけて歴史学習が続きます。

「歴史って難しそうだな」「こんな勉強苦手だな」という子どもたちの考えを、「歴史ってなんだか楽しそう」「もっといろいろ勉強してみたいな」という気持ちに変えたいというのがねらいです。

本当は歴史を訪れて実践したいところですが、本校は地理的に歴史から遠いため、出張授業で行うことができればいいと思います。

6年生	教科：社会	単元名：歴史を調べる手がかり	4月	3時間
実践校：西海市立瀬戸小学校		授業担当者：福田浩久		
目標	資料を見たり、ふれたりすること、また博物館の方の話を聞いたりすることを通して、これからの歴史学習への意欲・関心をもつとともに、自分たちの暮らしが歴史の上に成り立っていることに気づく。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○歴史についてのイメージを話し合う。	1	○「歴史」を中心にした、イメージマップを作成させ、自分もつ歴史についてのイメージを確認させる。		
○博物館の方と出会う。 (出張授業)	2	○まず、長崎歴史文化博物館の概要やそこでどんな仕事をしているのかななどを簡単に話してもらう。		
○資料を見て、気づきを出し合う。		○資料「南蛮屏風」を見て気づきを出し合い、考えを交流させる。 (資料を見る視点) ・人物…いろいろな人がいる。服装や格好が様々 ・動物…様々な種類の動物がいる ・建物や乗り物…教会や船など これらの気づきから、1つの資料からもいろいろなことがわかることに気付かせたい。		
○資料にふれ、気づきをもとに話し合う。		○資料「江戸時代の貿易品」を見たり、実際に触ったりして、多様な気づきを出させたい。 ○今の生活とのつながりにも気付くことができるようにする。 ○資料について歴文の方に話を聞くことで、歴史を学ぶ期待感を持たせたい。		
○ふりかえりをする。		○ノートに学習の振り返りを書かせ、お互いに話し合わせることで、さらに歴史の学習に興味や関心を持たせたい。また、最初に書いたイメージマップに付け加えをさせ、学習後のイメージの広がりにも気付かせるようにする。		
評価 規 準	資料を見たり、博物館の方の話を聞いたりすることを通して、これからの歴史学習への意欲・関心をもつとともに、自分たちの暮らしが歴史の上に成り立っていることに気づくことができたか。			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



歴文の紹介(PCを利用して)

いろんなものがかかっているね

手元のカードの人はどこにいるかな？



象牙は思ったより重いなあ

加藤さんはすごい！何でも知ってる

この刀、切れ味良さそう…

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

6年の社会科では、1学期の最初から2学期終わりまで、長い期間をかけて歴史の学習をします。

子どもたちは「歴史って難しそうだな」「こんな勉強苦手だな」と考えがちですが、その気持ちを「歴史ってなんだか楽しそう」「もっといろいろ勉強してみたいな」と変えたいというのが一番のねらいです。

本当は歴文を訪れて実践したいところですが、本校は地理的に歴文から遠いため、今回は出張授業で行っていただきました。

事前の打ち合わせの際、お願いしたことは、

- (1) この時間は歴史の導入として大切な時間になるので、資料を効果的に使っていただき、できるだけ歴史に興味や関心をもたせるようにさせたい。
- (2) 歴史は「今よりずっと昔の古いこと」ではなく、「今の自分たちの生活とつながっている」という気持ちをもたせたい。

の2つでした。

実際の学習場面では、まず資料「南蛮屏風」を見て、初めて見たにもかかわらずいろいろな気づきをもつことができました。資料からいろいろなことが読み取れることを身をもって感じる事ができたと思います。

また、資料「江戸時代の貿易品」では、見るだけ(説明を聞くだけ)でなく、実際に触ったり、においをかいだりさせてもらい、より実感を伴って学習を進めることができました。

この学習を通して、「歴史っておもしろそうだな」という気持ちをもつ子が増えたと感じています。

改善点(反省点)としては、今年は秋の行事が多く、メインに考えていた「江戸時代の学習を歴文で」ということができなかったことです。

歴文の加藤さん、下田さんにはいつもお世話になり感謝しています。今回の実践でも、打ち合わせは大切だということを痛感しました。

平成22年度 歴文博教育研究プログラム活用授業(6年) 略案【改】

実践校：長崎市立深堀小学校 授業担当者：加藤尊城

◎実施日：平成22年10月6日（水）

◎「徳川の世はどんな世の中だったの」（1単位時間×3クラス）

◎本時について

(1) 留意事項

- ・ 本小単元の学習は9月に終わっているため、本時は発展・補足的な学習という位置づけになる。

(2) ねらい

- ・ 「出島パズル」に取り組むことで、かつての出島に関する具体的な気づき、疑問を捉えさせ、知識や認識を深めさせる。
- ・ 出島に対する知識や認識、理解を深めさせることで、江戸幕府の統治政策とその基本方針への理解を深めさせる。

(3) 本時の流れ

過程	主な学習活動	備考・その他
導入 5分 ／	<p>○担任が、本日の講師を紹介する。講師が自己紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任の紹介は極めて簡潔に。 「どこからいらっしゃった、どなたか。」 という程度。時間にして10秒程度。 ・ 講師の自己紹介は、 「歴史文化博物館がどこにあって、元々どのような場所で、そこがどのような役割を持っていたものか。 また、現在、博物館がどのような働きを担っているか。」 といった内容。時間にして5分程度。 	<p>板書ステッカー 「歴史文化博物館」 「講師名」</p>
展開	<p>※ ここからは、講師が進行を主導する。担任はサポートに回る。</p> <p>○「出島パズル」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まず、「出島」という言葉について、子ども達がどの程度の認識を持っているか確かめる。 「『出島』って、どのような所だったのでしょうか 	

展	<p>か？」</p> <p>と発問し、当時の様子や働き、役割に関する児童の認識を拾い上げる。児童の発言は、担任教師が板書し、整理していく。(5分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班毎(5乃至6班)に「出島パズル」を配布し、取り組ませる。 <p>あらかじめ作業予定時間を示してから、作業を開始させる。(7分程度?)</p>	
開	<p>※ ここからは、担任教師が主導する。</p> <p>○完成した「出島パズル」を囲んで、気づきや疑問を出し合う。(7分)</p>	<p>出島の掛け図(パズル完成状態の物)</p>
32分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見を出し合う時は、「人」、「身につけている物」、「道具」、「建物」などカテゴリーを示して整理していく。 <p>最初の気づき、疑問をカテゴリー付けして、以降の進行を臨機に方向付けするのは担任教師の役割。</p>	<p>【評価①】</p>
/	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任教師や講師は、児童らの気づきや疑問に対して肯定的、賞賛的なりアクションを大きく示して児童のやる気を高める。 <p>○児童らの気づきや疑問を受けて、講師が解説を加える。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講師の知識の深さを存分に活かしていただく。 ・ 徳川幕府の国内統治に関する考え方に結びつけた解説をお願いしたい。 	
まとめ	<p>○今日のふりかえりを行う。(7分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この時間の学習で「出島」や「徳川幕府の統治」について、新たに分かったことをノート(ワークシート)に1つ書く。 ・ 講師の方を迎えて取り組んだこの時間の授業に関するショート感想を書く。 ・ 担任教師は机間巡視を行い、この後の発表に備える。 	<p>【評価②】</p>
11分	<p>○ふりかえりを発表する。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任は机間巡視で得た情報を元に、拳手指名、教師指名に生かす。 ・ 「学習上の気づき → 授業の感想」 	

という流れで発表させる。

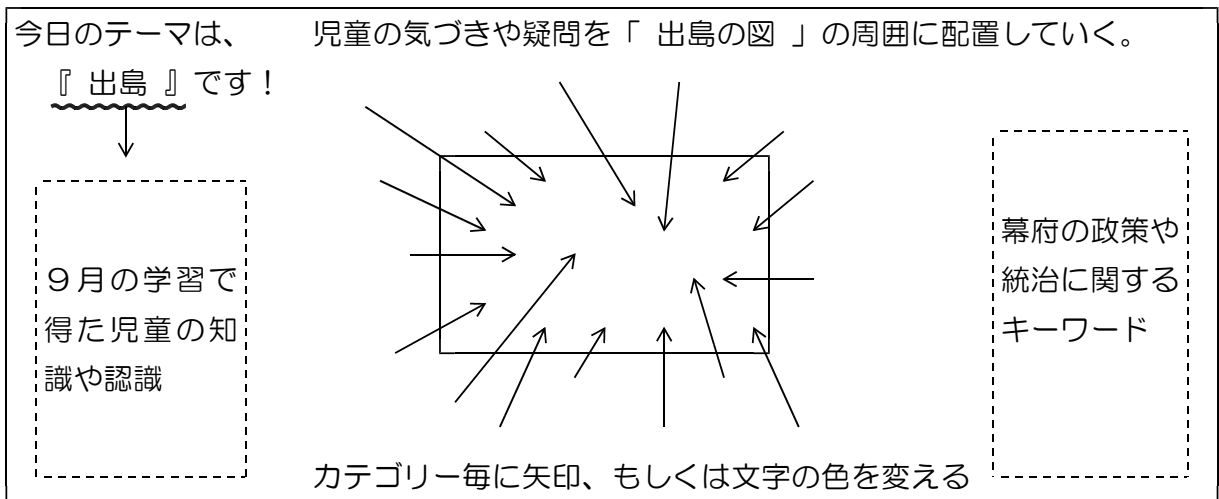
○講師に感謝の気持ちを伝える。(1分)

- ・ あらかじめ代表児童を決めておいて感謝の言葉を準備させておく。

(4) 評価

- ① 「出島パズル」に取り組むことで、かつての出島に関する具体的な気づき、疑問を捉え、知識や認識を深めることができたか。
- ② 出島に対する知識や認識、理解を深めることで、江戸幕府の統治政策とその基本方針への理解を深めることができたか。

(5) 板書計画



6年生	教科：社会	単元名：戦国の世は、どう統一されたのか ～新しい国づくりは、どう進められた	9月～11月	13時間
実践校：長崎市立女の都小学校		授業担当者：深堀昭三		
目 標	1 教科書主体に学ぶ日本の歴史の中で、長崎との関係から学習することで歴史的事象の身近さを感じさせる。 2 郷土の歴史に興味を持たせ、歴史に対する学習意欲を持たせる。 3 具体的な資料や場所を体験させることで、知識や判断技能の修得促進を図る。 4 ガイドさんとの交流で、人を通して学ぶ歴史体験をさせる。			
	学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
	○長崎開港からキリスト教伝来までの経緯を学ぶ	1	どうして長崎が注目されるようになったかを、国内事情、ヨーロッパの様子、キリスト教の都合や大航海時代との関連から時代背景を考慮して予想させる。	総合的な学習
	○出島と新地。中国文化とオランダ文化をおくんち行事をもとに学ぶ	1	おくんちに関わって出し物が中国風であったり、ヨーロッパ風であったりするのには何か理由があるのかを児童に考えさせる。そこから歴史を探らせる方法をとった。	
	○江戸時代における蘭学について学ぶ	1	「江戸の敵は長崎で」の言葉が生まれたようにこの時代の長崎は特別視されていたことについて考え、長崎が蘭学の中心であったことを理解させる。	
	○幕末における長崎の役割について学ぶ	1	時代を変えた人物たちの多くが長崎と関わりがあることを理解させる（坂本龍馬、高杉晋作、西郷隆盛などの人物）武器商人の活躍（グラバーなど）	
	○博物館見学と長崎さるく	6	これまでに学んだ事柄を長崎歴史文化博物館の見学やさるくでたしかめるとともに、ガイドさんを通して学ぶことの新鮮さを体験させる。	
	○学習をまとめる新聞作り	3	1人1枚の新聞を作り、体験学習のまとめとさせる。特別に印象に残ったことを中心にまとめさせる。	総合的な学習
評 価 規 準	1 歴史の身近さを体験することができ、興味を持つことができたか。 2 歴史学習に対して、これまでより意欲が高まったか。 3 知識や判断、思考能力が高まったか。 4 世の中には様々な人がいて、歴史に詳しい、優しい人たちがいるということが分かった。			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

● 学校での授業で

長崎の歴史を授業で取り扱う，資料や内容についてまとめられた準教科書的なものがない。3，4年生が使用しているような傾向のものがあれば郷土学習は進展していくと考える。

● 苦労点及び改善点

コンビニ的な気軽さで資料のやりとりができる環境が欲しい。現時点では手続きや申請など煩雑で，日常の業務においてはおっくうになる。

長崎市にある見学希望施設の減免申請の窓口が一つ一つ違うので大変煩わしい。行政改革が望まれる。ネット申請や簡略化ができないものか。

定期バスを利用し，悪天候でも活動ができることから，体験的活動が少ないのは教職員の意識の低さと思われる。（市社会科のカリキュラムに位置づける方法もあるが，課題も多い）

● 見学活動を学校で毎年実施される遠足的な行事として設定すると案外容易かもしれない。

● 地域の子どもは地域で育てるとよく言われるが，長崎の子どもは長崎で育てるという視点が見えない。郷土学習支援にも行政や企業が連携して活動すると児童のまなびや市民生活の活性化につながると思う。

● 博物館に体験ゾーンをよりおおく設定し（キリスト教伝来時の音楽や活版印刷など）遊びを取り入れた活動の充実

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：「長崎に感動！」(総合)	9月～11月	総合：20時間
実践校：長崎市立西山台小学校		授業担当者：中山美加・川口邦春		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの郷土長崎の歴史や文化に触れる活動を通して、長崎の持つすばらしさを発見したり、見直したりすることができるようにする。 ・学んだことを生かして「西山台ふれあいまつり」運営への意欲を高め、愛校心や郷土愛をもてるようにする。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 郷土長崎の歴史や文化について学び、ふれあいまつりに活かす計画を立てる。	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあいまつりのオリエンテーションにおいておくんちの魅力に触れ、関心を持たせる。 ○長崎歴史文化博物館見学や踊り町見学について計画・準備を行う。 	(1)	(2)
2 長崎歴史文化博物館見学、おくんち踊り町見学への参加をする。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○「くんち374年展」の見学と踊り町の庭見せを見学し、歴史や文化のほか、まつりの運営面などにも目を向けさせる。 ○同時に国語のユニバーサルデザインの取材ができるように視点を持って見学するよう準備しておく。 	国語「みんなで生きる町」(ユニバーサルデザイン)	
3 博物館見学や踊り町見学についてまとめ、ふれあいまつりの構想を持つ。	1	○見学してきたことを振り返り、ふれあいまつりにいかせるようまとめる。	(2)	(3)
4 踊り町の人と交流し、ふれあいまつりの計画を立てる。	2	○G/Tを招き、演技を指導してもらう機会を設ける。ふれあいまつりの川船について構想し、計画を立てさせる。	(3)	
5 ふれあいまつりの準備を行う。	8	○演技について、その魅力が伝わるような工夫を考えさせながら練習する。	(3)	図工「12歳のわたし」(版画)
6 ふれあいまつりで川船の演技を発表する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあいまつりで川船の演技を行い、長崎くんちの魅力を表現させる。 ○活動の振り返りを行い、郷土や自分たちの学校についての思いを持たせる。 	(4)	ふれあいまつり (4)
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> (1) 長崎に関心を持ち、郷土の歴史や文化のすばらしさを発見し、その魅力を自ら経験しようという態度を持つことができたか。(関心・意欲・態度) (2) 見学で実際に調べたり、説明を受けたりしたことをもとにふれあいまつりの構想を持つことができたか。(課題設定能力) (3) おくんちの魅力や携わる人の思いに触れ、自分たちのふれあい祭り結びつけながら、川船の演技を工夫することができたか。(交流・発信力) (4) 長崎の魅力に気づくことができ、愛着を持つことができたか。(自己の生活を見つめる力) 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

○児童の感想

・『くunchi 374年展』では知らなかった町のことや江戸時代のおくunchiのことを初めて知りました。」

・「おくunchiは毎年楽しみにしていたけど、こんなに歴史があるとは知らなかった。」

・「博物館に飾ってあったくunchi料理が新大工町にも飾ってあったので『ほんとに今も続いているんだ』と思いました。」

・「長崎に新体解書の本があるとはびっくりしました。長崎が江戸時代に日本の中心であることがわかった。」

・「おくunchiの歴史がすごいとわかった。わたしたちのふれあいまつりも歴史を作っていくと思う」

・「ふれあいまつりの準備は大変だと思っていたけどおくunchiのことを考えたら準備が大切だとわかった。」

・「歴史博物館はきたことがあったけど、ガイドさんの説明を聞くとわかりやすかった。」



・くunchi料理の説明



・傘鉾の説明

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

○いろいろな公共施設を利用する際には事前の打合わせは欠かせないが、初対面の方と話をするというのは緊張感も高く難儀なものである。今回は指導教師としてパートナープログラムに参加しているということが、事前の連絡や打合わせを行う際に大変心強く思えた。また、教師が博物館の方と心開いて話ができる、という状況が子供たちに与えた影響も大きく、ほかの施設に行ったときよりも自ら質問をしたり、積極的に説明を聞いたりする姿が多く見られた。大変有意義であった。

○ボランティアガイドの方との交流の仕方について改善の余地があると感じた。ひとときの交流であるが、引率者として自己紹介をいただいたり、児童からのあいさつの場を設定することができたのではないかと反省している。説明を聞くことも大変勉強になるが、ボランティアガイドの方のお人柄やその専門性の高さに触れることで児童にとっては貴重な出会いとなると考えられる。

○「対馬展」を同時に見ることで、長崎県全体への関心がかなり高まった。今後も長崎歴史文化博物館を児童に身近に感じてもらえるような学習や学校での紹介など、やっていきたいと思う。

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：「長崎再発見」	5月～11月	35時間
実践校：長崎市立西城山小学校		授業担当者：川端健一		
目標	自分たちの郷土長崎のよさを見つける活動や修学旅行先の歴史や文化にふれる活動を通して、自分たちの郷土のよさを発見したり、郷土のすばらしさを発信したりすることができるようにする。さらにはこの学習を通して、長崎に対する郷土愛を持てるようにする。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 郷土長崎の文化や歴史について調べる計画を立てる。	3	○修学旅行のオリエンテーションの場で、「じげもんクイズ」を出し、修学旅行先を調べる前に、郷土長崎について知らないことが多いことに気づかせる。 ＜修学旅行プレゼンテーション＞ ○長崎歴史文化博物館見学や長崎さるくへの参加をする計画や準備をする。 ※長崎さるくのコースを複数設定し、それに合わせた博物館内での見学ができるように事前打ち合わせが必要	(1)	
2 長崎歴史文化博物館見学と長崎さるくへの参加をする。	6	○コース別に博物館内での見学が午後、現地で確認できるように見学の計画を立てておく。 ○各コースにデジカメを貸し出し、見学したポイントを撮影させ、後のガイドマップ作りに生かせるようにする。同時に、図工の風景画に生かせる風景も撮らせておく。	(2)	図工 「私の町」 (風景画)
3 「博物館・さるく」で自分が見学したコースをガイドマップにまとめ、それぞれのコースごとにその魅力を紹介し合う。	6	○異なるコースの児童が入るようにグループを作り、各コースの魅力の紹介を行う。	(3)	国語「ガイドブックを作ろう」
4 修学旅行の自主研修の計画を立てる。	5	○ガイドマップや施設案内等を調べさせ、コース取りをさせる。	(2)	修学旅行
5 修学旅行で自主研修を行う。	8	○各コースごとにデジカメを貸し出し、見学したポイントを撮影させ、後のガイドマップ作りに生かせるようにする。	(3)	図工「版画」
6 見学したコースをガイドマップにまとめ、それぞれのコースごとにその魅力を紹介しあう。	5	○郷土長崎との違いや共通点等も常に意識をさせながらガイドマップに表現できるようにする。	(4)	
7 理想的な長崎の修学旅行コースを提案し、にししろフェスタで発表する。	2	○にししろフェスタで発表をする準備を行う。郷土長崎への魅力や思いをまとめ、理想的な長崎の修学旅行コースを提案する。		にししろフェスタ
評価規準	<p>(1) 郷土長崎に関心を持ち、郷土のよさを発見し、その魅力を発信しようという態度を持つことができたか。(関心・意欲・態度)</p> <p>(2) 見学で実際に見聞きしたり、自分自身が感じたりした内容をコース図等と結びつけながら長崎や修学旅行先の歴史文化のイメージをとらえることができたか。(問題解決力)</p> <p>(3) 自分自身が感じた各コースの魅力が相手に伝わるようにガイドマップに盛り込み、読み手を引きつけるような工夫をすることができたか。(コミュニケーション力)</p> <p>(4) 郷土長崎の魅力に気付いたり、愛着を持ったりすることができたか。(自分の生活を見つめる力)</p>			

学習活動の軌跡(感想文, 作品, 現場の写真, ノート, ワークシートなど)

歴史文化博物館見学 / 長崎さるく見学 / 長崎さるくガイドマップづくり



ボランティアの人に教えてもらったためがね橋のつくり方や中国から伝わったことなどにびっくりしました。さらに分からないことなどがあつたら、さるくのガイドさんにも聞いてみようと思いました。



博物館の見学で、長崎の貿易も中国や他の外国ともしていただいに協力し合っていることがわかりました。・・・さるくでガイドの杉山さんで行った場所は外国と幕府の関係をよく示す場所でした。長崎は日本全体の出発点だとわかりました。少し「じげもん」レベルが上がりました。



博物館では2/3程が気になることばかりでした。その内の1/5程はさるくで解明できるので、さるくもがんばりたいです。・・・こんなにいろんなことが知れたので「橋さるく」でよかったです。次はほかのコースにも行ってみたいです。

学習後のアンケートから・・・Q:博物館では、長崎さるくのコース内容に合ったポイントでガイドしてもらいましたが、午後からの長崎さるくの見学に役に立ったと思いますか？

・・・「役に立った」(91%) ・そのまま行っていたら、わけが分からなかったかもしれない。 ・おおよそのことが分かって実物を見に行くとよく分かった。 ・博物館のガイドさんがさるくもガイドをしてくれた。

懐かしの街並み

～中通り界限～

①青空市場
ちゃんと屋根がついており、雨でも買い物ができます。現在、10軒ほどのお店が営業していますが、最盛期には300軒もあったそうです。
☺ 広かったです、お店もたくさんありました。

②岩永梅寿軒
天保元年(1830)創業の和菓子店。季節を盛り込んだ引き菓子が美しい。こちらの看板は大正時代に作られたもの。
☺ カステラがおいしかったです!!

③くろせ弘風堂
昔ながらのずばん漬が売られています。長崎のずばん売りの歌が聞こえるかも! ☺
ずばん漬のよかんがおいしい。

④きつんせいじ
電車の車体を前面に使ったレストラン。昔のつり革や珍しい看板、古い写真がかざってある。

⑤眼鏡橋
我が国最古のアーチ型石橋。水面にアーチが映り、2つの円ができることから眼鏡橋と呼ばれた。長崎大水害で半壊し、かき付いた階段部分が露出し、以降は階段付き。
☺ 暗れている時に見ると2つの円がみえるかも!!

☆感想
懐かしの町並みは、昔のままの道やお店がたくさんありました。子どもでも大人でも楽しめるさるくだと思います。いろんな物を食べたり、もったり、お店の人達がやさしくしてくれてすごく楽しかったです。

児童が作成したガイドマップ 実際に歩いた実感やおすすめポイントを盛り込んでいる。

熊本さるく見学／修学旅行／熊本さるくガイドマップづくり／長崎と熊本のよさ比べ



街が見渡せる城があるなんてすごい。熊本は長崎と違って、平野だね。

城壁や上級武士の屋敷はさすがに城下町らしい。

長崎も山があるけど、阿蘇山などは規模が違う。

熊本と長崎の共通点と違いを究

天守閣
大小天守閣
天守閣は昔西南戦争の前に原因不明の火事焼失しました。そして今の天守閣は復元されたもの。大天守閣は地上6階地下1階石垣の上から高さ約30m
小天守は地上4階地下1階高さ約19m

長崎市の違い
熊本城あり→長崎市城なし

天守閣の屋上からは熊本市の景色が見られとても印象に残った。

細川刑部邸には昔ながらの台所や化粧などの数々のものが置いてある。沢山の部屋があった。その中でも僕は(御二)間の部屋が印象的で、机やなぐさなどのものが置いてあった。

熊本←→長崎

熊本	長崎
日本人が建てた建物が有名	外国の建て物が有名

感想

天守閣、旧細川刑部邸、本丸御殿は昔ながらのものが置いてありとても印象に残った。また、行くきかいかがあったら行きたいです。

児童の作成したガイドマップ
長崎ガイドマップでの改善点をふり返った後、作成させた。

学習後のアンケートから・・・Q：熊本さるくでは、長崎さるくの学習がいかせたと思いますか？

「いかせた」(94%)

- ・長崎と熊本の違いを探しながら見学することができた。
- ・地図をもとに歩く力が付いた。
- ・長崎のガイドマップづくりで友達のよさを発見していたので、熊本ガイドマップに新しくアイデアを生かすことができた。

「どちらとも言えない」(6%)

- ・長崎よりも熊本の方がくわしく調べられなかったから。

自然の規模が違う。

長崎は海のすぐそばに山がある。坂や山とくらしている感じがする。

長崎はたくさん人が集まってきた歴史の街だ。

でも、両方とも路面電車が走っているところは同じだ。

熊本は城下町。そして、平野が広がっている。街の感じが全然違う。

長崎の修学旅行プランを立てよう

移動時間・移動方法・料金なども計画に入れましょう。

1日目		2日目	
13:00 長崎駅 3系統、市道行 13:10 13:15 13:25 13:35	13:30 長崎駅 3系統、市道行 13:40 13:45 13:55 14:05	9:00 長崎駅 山手線、茶屋 町 9:10 9:15 9:25 9:35	9:00 長崎駅 山手線、茶屋 町 9:10 9:15 9:25 9:35
14:00 瀬上天王堂 見学 スリッチ主催 メモ取りあり。	14:00 瀬上天王堂 見学 スリッチ主催 メモ取りあり。	10:00 眼鏡橋 25分徒歩 10:05 10:10 10:20 10:30	10:00 眼鏡橋 25分徒歩 10:05 10:10 10:20 10:30
15:00 原爆資料館 見学 メモ取り	15:00 原爆資料館 見学 メモ取り	11:00 美術館 見学 14:40~15:00 11:05 11:10 11:20 11:30	11:00 美術館 見学 14:40~15:00 11:05 11:10 11:20 11:30
16:00 長崎駅 16:10 16:20 16:30 16:40 16:50 17:00	16:00 長崎駅 16:10 16:20 16:30 16:40 16:50 17:00	12:00 出湯(電停) 見学 [40分見学] 12:10 12:20 12:30 12:40 12:50 13:00	12:00 出湯(電停) 見学 [40分見学] 12:10 12:20 12:30 12:40 12:50 13:00
夕食メニュー ぎょうざ チャーハン	夕食メニュー ぎょうざ チャーハン	夕食メニュー トルコライス デザート かわ角煮まん	夕食メニュー トルコライス デザート かわ角煮まん

移動時間・移動方法・料金なども計画に入れましょう。

1日目		2日目	
13:00 長崎駅 13:05 13:10 13:15 13:20 13:25 13:30 13:35 13:40 13:45 13:50 13:55 14:00	13:00 長崎駅 13:05 13:10 13:15 13:20 13:25 13:30 13:35 13:40 13:45 13:50 13:55 14:00	9:00 長崎駅 9:05 9:10 9:15 9:20 9:25 9:30 9:35 9:40 9:45 9:50 9:55 10:00	9:00 長崎駅 9:05 9:10 9:15 9:20 9:25 9:30 9:35 9:40 9:45 9:50 9:55 10:00
14:00 出島見学 14:30 14:35 14:40 14:45 14:50 14:55 15:00	14:00 出島見学 14:30 14:35 14:40 14:45 14:50 14:55 15:00	10:00 長崎原爆資料館見学 10:05 10:10 10:15 10:20 10:25 10:30 10:35 10:40 10:45 10:50 10:55 11:00	10:00 長崎原爆資料館見学 10:05 10:10 10:15 10:20 10:25 10:30 10:35 10:40 10:45 10:50 10:55 11:00
15:00 美術館見学 14:40~15:00 15:00 15:05 15:10 15:15 15:20 15:25 15:30 15:35 15:40 15:45 15:50 15:55 16:00	15:00 美術館見学 14:40~15:00 15:00 15:05 15:10 15:15 15:20 15:25 15:30 15:35 15:40 15:45 15:50 15:55 16:00	11:00 平和公園見学 11:05 11:10 11:15 11:20 11:25 11:30 11:35 11:40 11:45 11:50 11:55 12:00	11:00 平和公園見学 11:05 11:10 11:15 11:20 11:25 11:30 11:35 11:40 11:45 11:50 11:55 12:00
16:00 水辺の森公園 16:00~16:30 16:30 16:35 16:40 16:45 16:50 16:55 17:00	16:00 水辺の森公園 16:00~16:30 16:30 16:35 16:40 16:45 16:50 16:55 17:00	12:00 出湯(電停) 見学 [40分見学] 12:10 12:20 12:30 12:40 12:50 13:00	12:00 出湯(電停) 見学 [40分見学] 12:10 12:20 12:30 12:40 12:50 13:00
夕食メニュー ごはん・お味噌汁 魚の塩焼き	夕食メニュー ごはん・お味噌汁 魚の塩焼き	夕食メニュー トルコライス デザート かわ角煮まん	夕食メニュー トルコライス デザート かわ角煮まん

児童が作成した修学旅行プラン
博物館や長崎さるくの見学を生かした長崎の修学旅行プラン。移動方法や見学時間を詳細に計画している。食事も長崎名物を入れるなどの工夫をしている。

学習後のアンケートから・・・Q: 修学旅行プランづくりでは、博物館やさるくの学習がいかせたと思いますか？

「いかせた」 (91%)

- ・実際に歩いて確かめたので、自信をもってプランづくりにいかせた。
- ・ガイドさんや修学旅行の添乗員さんの立場になってプランを立てることができた。

「どちらとも言えない」 (9%)

- ・長崎のよさをもっとアピールするものをまだまだよく分かっていないから。

授業担当者による自由記述 (活動の特徴, 苦労した点, 改善点, 学びの発展等)

◇「長崎さるく」へいかす博物館見学

従前より本校は、長崎歴史文化博物館の見学や長崎さるくの利用をしてきた。しかし、博物館見学を長崎の歴史文化全体のイメージを捉えるために入門編として、「さるく」はポイントを絞った学習という取扱をしており、双方の関連を考えた展開を考えていなかった。今回は博物館の加藤さんとの事前打ち合わせの中で、午後のさるくの見学内容に焦点を合わせた博物館内の見学ができるようになった。前項に挙げた児童の反応が今回の展開をまさに評価していると思う。

「ガラスケースの向こうにあるものは元々、我々の祖先の生活の場にあったものである」ということを感じとれたら「じげもん」づくりの成功であると思う。単元終了後の児童の感想に「石橋という、眼鏡橋しか知らなかったけど、他にもたくさんあるのだと分かって、すごいと思いました。」「長崎という街の見方が変わったような気がします。」「他の県からきた友達に長崎を自慢しました。」など書かれてあった。

◇修学旅行プランをさらに生かすために

「プランができたなら実際にその通りにできるか試しに行きたい。」児童の反応にはっと気付かされる。実際は、プランを展示発表したのみである。「調べる」>「まとめる」>「発表する」という展開の前に「いかすために調べる」と、最後に「いかす」という部分が欠落していた。「長崎さるくのボランティアになろう」と>「実際に自分で歩いて調べる」>「改善をしてみる」>「実際にガイドしてみる」という展開があることに、単元後の児童の感想を読みながら気付かされた。

「長崎の街並みをきれいにしたい。」「長崎原爆のことを県外の人に知ってもらうには県外に資料館を作ってもっと平和について考えてもらえるようにしたい。」郷土に対する関心を高めることは、将来郷土を支える力となるだろう。

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：「長崎再発見」Ver. 2	5月～12月	35時間
実践校：長崎市立西城山小学校(実践案)		授業担当者：川端健一		
目標	自分たちの郷土長崎のよさを見つける活動や修学旅行先の歴史や文化にふれる活動を通して、郷土のよさを再認識し、それらを修学旅行プランとして表現することができる。修学旅行先の小学校との交流を通して、それぞれの郷土のよさを意欲的に調べ表現することができる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項		評価・他教科関連
1, 修学旅行のプランを立てる。	4	○ 修学旅行についてのプランを立てる中で、現地の小学生に「おすすめプラン」紹介してもらう。同時に相手校へ長崎旅行時の「おすすめプラン」を紹介することを約束する。(相手校との事前打ち合わせが肝要)		(1)
2, 長崎歴史文化博物館見学を行う。	4	○ この見学は長崎の歴史文化についての概略をつかむことをねらいとする。帰校後、それぞれ関心を持ったテーマをもてるようにする。		
3, 各自、長崎の歴史・文化・平和などの中からテーマを決め調査を行う。	8	○ 校内での資料やHP等で調べる。調べていく中で更に詳しく知りたい、現地でしか得られない情報(写真やビデオ等も含む)を得たいという意識になると考えられる。		
4, 現地調査を行う	6	○ それぞれのテーマや調査内容により以下の現地調査が想定できる。 ・歴史文化博物館見学 (展示室でのピンポイント調査、資料閲覧、体験工房等) ・長崎さるく参加 ・平和ゾーン取材(原爆資料館周辺、城山小学校周辺等)		(2) (3)
5, 長崎ガイドマップおよび修学旅行プランを作成する。	8	○ 「私たちの長崎さるくプラン」として修学旅行内の自主研修プランを作成する。		
6, 相手校へプランを届けるなど交流を行う。	5	○ 修学旅行先で直接届けたり、相手校が来崎した際に直接交流したり、案内したりするなどが、可能であれば実施する。実際に作成したプランをどう使ったのかをお互い情報交換しそれぞれの研究の成果を確かめ合いたい。		(4)
評価 規 準	(1) 郷土長崎に関心を持ち、郷土のよさを発見し、その魅力を発信しようという意欲を持つことができたか。(関心・意欲・態度) (2) 自分が関心を持ったテーマを調べ、プランに作り上げる中で、実際に見学する相手、時間や経路等のことを考えることができたか。(問題解決力) (3) 自分自身が感じた各コースの魅力が相手に伝わるようにプランに盛り込み、読み手を引きつけるような工夫をすることができたか。(コミュニケーション力) (4) 郷土長崎の魅力に気づいたり、愛着を持つことができたか。(自分の生活を見つめる力)			

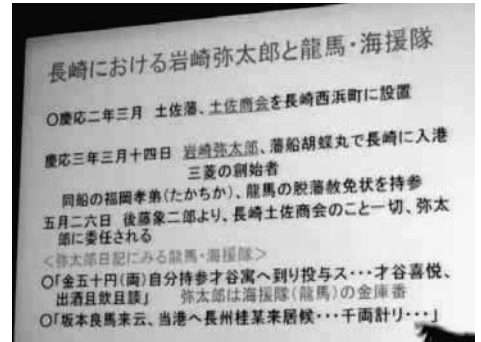
6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：龍馬の足跡	12月～2月	20時間
実践校：長崎市立伊良林小学校		授業担当者：宇土剛・森山哲・赤瀬妙子		
目 標	長崎との関係も深い坂本龍馬について調べる活動を通して、社会科の歴史の学習を深めたり、郷土である長崎や伊良林の歴史を知ったり、よさを発見したりすることができるようにする。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 学習のめあてをつかむ。	1	○社会科の歴史で学習した坂本龍馬のことを振り返らせる。また、NHKの大河ドラマ「龍馬伝」の収録が地元であることを知らせる。 ※収録見学めあての観光客に対して自分の町を説明できる必要性を感じさせる。	【意欲関心態度】 社会科「黒船の来航は世の中をどう変えたの」	
2 坂本龍馬について知っていることを整理する。	2	○自主学習で調べさせる。 ○インターネットを利用して興味があることについて調べさせる。	【意欲関心態度】	
3 長崎歴史文化博物館で坂本龍馬の話聞く。	2	○インターネットでの調べ学習は幅が広すぎて、情報の正確さの判断も難しい。 そこで、「長崎とのつながり」というテーマで専門の先生にお話をさせていただく。	【意欲関心態度】	
4 聞いたお話をまとめ、感想を書く。	2	○歴史文化博物館でいただいた資料と見学メモをもとに分かったことをまとめ、今後自分が調べたいことも含めて感想を書かせる。	【課題設定力】	
5 調べる課題を設定する。	1	○児童の感想から5つの課題に整理して自分が興味をもつ課題を1つ決めさせる。課題は以下の通り ①龍馬とのつながり（人物関係） ②龍馬と長崎のつながり ③龍馬のエピソード ④龍馬の生涯・生き方 ⑤龍馬の業績・夢	【課題設定力】	
6 自分の課題に沿って調べる。	5	○同じ課題3人～5人のグルーピングをし、手分け協力して調べさせる。 (調べる方法) 図書室・インターネット 図書館で借りた資料など	【問題解決力】	
7 発表の準備をする。	3	○グループで協力して調べたことをまとめさせる。 (発表のポイント) ①見やすい ②聞き取りやすい ③全員が活躍する ③15分以内	【問題解決力】	

8 発表をする。	2	○発表を聞くときは、自分の調べた内容と比べて新しく知ったことをメモする。メモをもとに質問する。	【表現力】
9 まとめる。	2	○調べたことと発表をもとに自分の課題にあった答えをまとめる。	【問題解決力】
評 価 規 準	<p>○坂本龍馬と郷土長崎・伊良林のつながりに興味をもち、進んで話を聞いたり調べたり、発信したりすることができたか。【意欲関心態度】</p> <p>○長崎歴史文化博物館で聞いた話と自分の興味を結びつけて課題を設定することができたか。 【課題設定力】</p> <p>○自分の課題に合った資料を選び、グループで協力して学習を進めることができたか。 【問題解決力】</p> <p>○調べたことを分かりやすくまとめ、見やすく聞き取りやすく発表することができたか。 【表現力】</p>		

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

社会科の歴史の学習の中で幕末の日本について学習をしてきたこともあって、子供たちは『坂本龍馬自身のこと』や『龍馬とつながりのある人物』について、興味をいただいていた。事前の調べ学習では、やや内容が浅かったこともあり、今回の歴史文化博物館での、この学習では、自分たちが知らなかったことをたくさん説明していただき、新しい発見があり、たくさんのお話を学ぶことができた。

<歴史文化博物館での様子>



スライドを使った説明は、大変わかりやすく、子供たちは、たくさんのお話をメモすることができた。



<歴史文化博物館での学習後>

学校にもどり、学習でわかったことや感想をプリントにまとめた。



龍馬の有名な写真は、長崎で撮影されていたこと、それを撮影したのが「上野彦馬」で、当時の撮影は大変時間がかかったことに驚いた。今回の博物館の学習では、伊良林バージョンで、スライドを使って話をいただき、大変わかりやすく、興味深いことが多かった。「龍馬と長崎でのゆかりある場所」や、「長崎でどんなことをしたのか」、また、自分が興味をもったことは、「龍馬と関わりの深かった人物」についてで、これから自分の課題として、調べていきたい。



その後、自分が1番興味をもったことをもとに、一人一人課題を設定した。

大きく5つの課題に分かれた。

- ①龍馬とのつながり（人物関係）
- ②龍馬と長崎のつながり（亀山社中も）
- ③龍馬のエピソード（事件・船のことも）
- ④龍馬の一生・生き方・妻のことなど
- ⑤龍馬の業績・夢・成し遂げたこと



それぞれが課題を決め、まずは自分で、本やパソコンを使って、課題の解決（調べ学習）を進めるようにした。



現在、調べ学習は継続中で、今後は、同じ課題の人と小グループを作り、調べたことをもとに、わかったことをまとめ、発表会を開き、学習したこと（わかったこと）の内容を共有できるようにしていきたいと考えている。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

歴史文化博物館での学習の前に、事前に子供たちに「坂本龍馬について知っていること」を宿題として出した。また、パソコンを使って、「坂本龍馬」について興味深いことを調べる学習を行っていた。

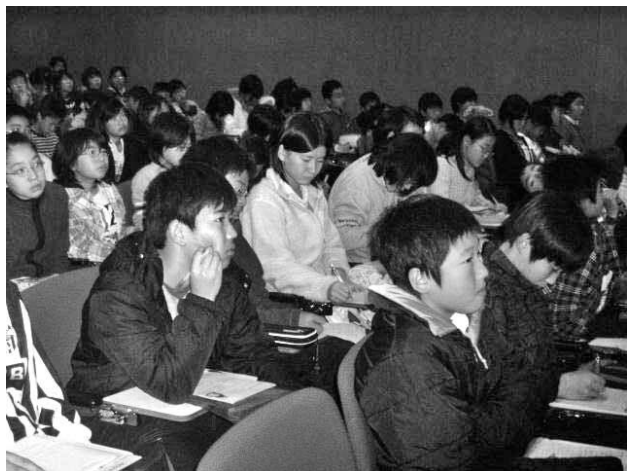
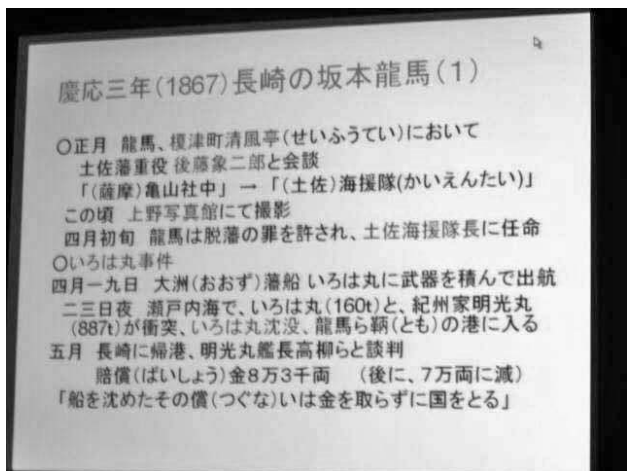
子供たちの中には、自主学習で「坂本龍馬」について調べてくる人もいて、龍馬の学習については、興味をもっている子供たちが多かった。

ただ、パソコンの情報では、幅が広すぎて、ポイントをしばった学習にはなっておらず、また、調べるための、本や資料が学校に少なかったことも事実で、今ひとつ学習活動が停滞いたように思う。

今回、この歴史文化博物館の学習では、学習内容の深まりはもちろん、子供たちの課題（調べたいこと）が焦点化されたことが何より良かったと思う。

スライドを使った説明は、大変わかりやすく、子供たちがメモ用紙に、たくさん記録を残していた。子供たちが真剣に話を聞いていたことがよくわかった。

また、子供たちだけでなく、教師自身も学習を深める場となった。



伊良林小学校は『亀山社中』にも近く、「坂本龍馬」について『知りたい』『学びたい』と思っている子供たちが多くいる。

今回のこの学習で、『坂本龍馬』について、どんなことでもいいので、他の人に『龍馬』について、話したり、説明したりできれば、この学習は大成功だと考えている。

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：龍馬の足跡	10月～2月	30時間
実践校：長崎市立伊良林小学校		授業担当者：森山哲・赤瀬妙子・宇土剛		
目 標	長崎との関係も深い坂本龍馬について調べる活動を通して、社会科の歴史の学習を深めたり、郷土である長崎や伊良林の歴史を知ったり、よさを発見したりすることができるようにする。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 学習のめあてをつかむ。	1	○社会科の歴史で学習した坂本龍馬のことを振り返らせる。また、NHKの大河ドラマ「龍馬伝」の収録が地元であることを知らせる。 ※収録見学めあての観光客に対して自分の町を説明できる必要性を感じさせる。	【意欲関心態度】 社会科「黒船の来航は世の中をどう変えたの」	
2 坂本龍馬について知っていることを整理する。	2	○自主学習で調べさせる。 ○インターネットを利用して興味があることについて調べさせる。 ○ウェビングで知識を整理する。	【意欲関心態度】	
3 調べる課題を設定する。	2	○児童の感想から5つの課題に整理して自分が興味をもつ課題を1つ決めさせる。課題は以下の通り ①龍馬とのつながり（人物関係） ②龍馬と長崎のつながり ③龍馬のエピソード ④龍馬の生涯・生き方 ⑤龍馬の業績・夢	【課題設定力】	
4 自分の課題に沿って調べる。	1 2	○同じ課題3人～5人のグルーピングをし、手分け協力して調べさせる。 (調べる方法) 図書室・インターネット 図書館で借りた資料など	【問題解決力】	
5 歴史文化博物館に行って「龍馬と長崎」というテーマで話を聞き理解を深める。	2	○自分の調べたことと話を聞きながら、新たな疑問についてはその場で質問する。	【問題解決力】	
6 亀山社中があった伊良林地区を歩く。		○長崎市の「さるくマップ」を参考に、風頭山から寺町までの「龍馬コース」を歩き、母校のすぐ近くに龍馬が活動した場所があることを実感させる。 このときは特に調べ活動は行わない。	【意欲関心態度】	
7 発表の準備をする。		○グループで協力して調べたことをまとめさせる。 (発表のポイント) ①見やすい ②聞き取りやすい ③全員が活躍する	【問題解決力】	

<p>8 発表をする。</p> <p>9 まとめる。</p>		<p>③15分以内</p> <p>○発表を聞くときは、自分の調べた内容と比べて新しく知ったことをメモする。メモをもとに質問する</p> <p>○調べたことと発表をもとに自分の課題にあった答えをまとめる。</p>	<p>【表現力】</p> <p>【問題解決力】</p>
<p>評 価 規 準</p>	<p>○坂本龍馬と郷土長崎・伊良林のつながりに興味をもち、進んで話を聞いたり調べたり、発信したりすることができたか。【意欲関心態度】</p> <p>○長崎歴史文化博物館で聞いた話と自分の興味を結びつけて課題を設定することができたか。 【課題設定力】</p> <p>○自分の課題に合った資料を選び、グループで協力して学習を進めることができたか。 【問題解決力】</p> <p>○調べたことを分かりやすくまとめ、見やすく聞き取りやすく発表することができたか 【表現力】</p>		

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

社会科の歴史の学習では、幕末についての学習は、わずかな時間しかないけれども興味をもっている児童は非常に多く、自主学習などで、進んで学習をしてくる児童がたくさんいた。

！ 坂本龍馬についてもっと知りたい！

このように思っている児童が多くいた。

単元の最初には、社会科で使った人物の写真を使いながら、龍馬の時代に活躍した人物について、再度確認をしていった。

- ・坂本龍馬
- ・木戸孝允
- ・西郷隆盛
- ・勝海舟
- ・大久保利通



1853年 黒船（ペリー）の来港で、日本が大きく動き出す。倒幕運動に関わった人物を中心に、このころの日本で何が起こっていたのかを再度確認していった。

学習に対する意欲を高めるため、テレビの番組の龍馬の特集やアニメ「お〜い龍馬」や、龍馬についての本を使いながら、学習意欲を高めていった。



子供達が坂本龍馬について、どんなことに興味をもっているか。また、どんなことを知りたいかを話し合った。

- 龍馬の子供時代について（仲間について）
- 土佐藩での龍馬の業績
- 龍馬はなぜ有名なのか？ 何をした人なのか。
- 勝海舟との関係
- 龍馬の生活
- 龍馬が好きだった食べ物
- 龍馬の家族
- 脱藩したあとの龍馬について
- 龍馬の名前の由来について
- 龍馬のブーツについて
- 龍馬が使っていた道具
- 龍馬の死について（なぜ暗殺されたのか）
- 龍馬の一生
- 亀山社中について
- 龍馬の長州藩と薩摩藩との関わり
- 幕末の人物関係



自分が興味のあることを課題として設定し、探求活動に入った。

解決の方法として、インターネットだけでなく、資料や本、また、教師の助言などをもとに、取り組み、龍馬の新聞を作成した。

* 子供達の学習の前に、教師の事前活動として、担任同士で、龍馬について学習を深め、知識を広げ、子供達の質問に、随時答えられるようにしていた。



<龍馬の新聞>・・・ (2学期末完成)

自分の課題を解決し、新聞にまとめる。



3学期の活動

伊良林近辺の龍馬にゆかりのある場所を散策

伊良林地区は、坂本龍馬との関係が深く、「亀山社中跡」や、「展示資料館」、「龍馬の銅像」・「龍馬のブーツ」などがある。歩いてまわると、当時の龍馬の思いを感じとることができる。子供達と散策する予定である。



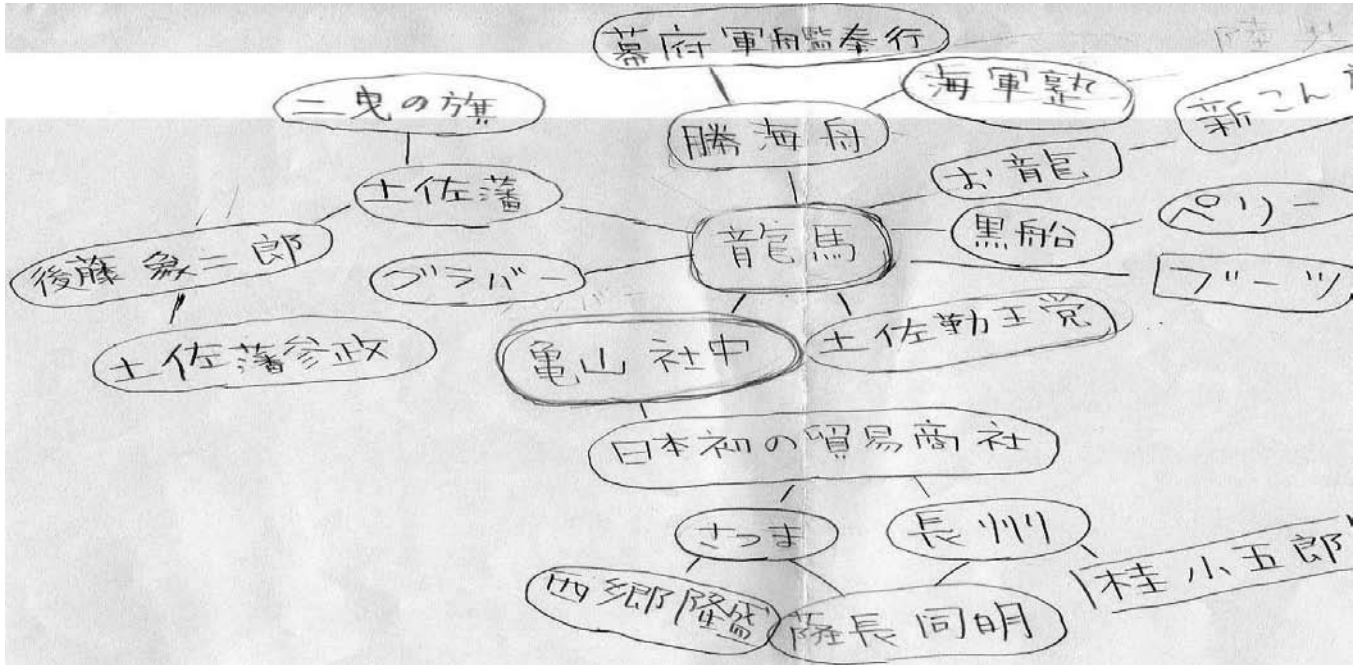
歴史文化博物館での学習

2学期の学習で、坂本龍馬のことについて、少し知識を身に付けている。龍馬と長崎とのつながりについて、さらに深めていきたいと思っている。

〈その他に取り入れた活動〉

坂本龍馬について知識をウェビングによって確認する

まず坂本龍馬や関連する人物・出来事に関する知識をウェビングによって確認させた。下のように多くの児童が坂本龍馬に関する人物や出来事を断片的に捉えているようすであった。



調べたことをもとに年表にまとめる

調べたことを年表にまとめ、さらに興味があることについて詳しく調べることで、長崎との関わりの深さに注目する児童が増えてきた。

「龍馬の足跡」

名前

龍馬年表をつくり、詳しく調べたことを解説しよう。

龍馬年表	
1835年	11月16日に長崎に生まれる。
1862年	3月 土佐藩を脱藩 12月 勝海舟の門下生になる。
1863年	10月 勝海舟の海軍塾頭となる。
1866年	1月21日「薩長同盟」成立と成り遂げる。 1月23日 寺田屋のお龍によって 責任をのかれる。 ↓ お龍との結婚し、西郷隆盛のいっ かいで鹿児島へ旅行して帰る。

亀山社中について

- 西郷隆盛の保護のもと「亀山社中」が
れる。
- 脱藩青年らも率いて、勝海舟にたのまれた航海
- 後藤象二郎によって「亀山社中」が「土佐海軍

寺田屋事件について

- 武士 VS 龍馬
(カ) (龍)
- お龍は、はたがで龍馬のいる部屋へま、

6年生	教科：総合的な学習 の時間	単元名：長崎再発見！ 熊本新発見！	4月～3月	65時間
実践校：長崎市立小ヶ倉小学校		授業担当者：長門・木下・(加藤)		
目標	※ 別添「総合的な学習 学習計画 (6)年」参照			
学習内容	時間	指導上の留意事項・参考事例	評価・他教科関連	
			※ 別添「総合的な学習 学習計画 (6)年」参照	
評価 規 準	※ 別添「総合的な学習 学習計画 (6)年」参照			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

(1)はじめに

本校では、昨年度、総合的な学習（以下「総学」と呼称）のカリキュラムを体系的に整える作業を校内研究のテーマとして掲げ、低学年の生活科も合わせて学年間の縦の系統と各学年の年間計画の見直し、確認、整理を行いました。

その理由は、主に2つありました。

1つは、本校の総学カリキュラムが未だ明確な形を得ていなかったからです。

もう1つは、新学習指導要領改訂によって、総学の年間配當時数が縮減されることになったからです。

新学習指導要領下に於ける配當時数の中で、本校の総学を学年の発達段階と学年間の系統性（どの学年がどのような主題でどのような活動範囲を設定するか等）、「教材の人間化」の一環である地域交流の学年配分（どの学年がどの地域団体と交流を深めるか）を形あるものに組み立てる取り組みを進めました。

今年度は、作り上げた計画を実際に実践に移しながら、評価の規準、あるいは基準をより明確にしつつ、年間計画中に位置付けようと試みました。

(2)第6学年の特殊事情

そういった流れの中、実は第6学年だけは特異な道筋を歩むこととなりました。

と申しますのも、一昨年度申請した「ふるさと体験プロジェクト」（文科省、総務省、農林水産省提携事業）が受理されたからです。

つまり、昨年度は、「その年限り」という取り組みのために総学の時間を割り当てなければならなくなったのです。

従いまして、第6学年の総学カリキュラムに関しては、今年度1年で昨年度の研究過程も含めた

2年分の作業量をこなさなければならない、という状況になったのです。

折から「行事の精選」が言われる中、本校に於いても、修学旅行と総学の連結がもくろまれ、今回のカリキュラムとなっております。今後の修学旅行先変更にも対応できるよう、6年担任の先生方は随分と腐心しながらカリキュラム案を作り上げてきました。

(3)「長崎再発見！ 熊本新発見！」について

第6学年の活動題は「長崎再発見！ 熊本新発見！」と題され、概要以下のような過程を踏むこととなりました。

①まず、自分たちのふるさとである「長崎」について、認識を深める。

②次に、修学旅行先である「熊本」について、理解を深める。

③双方の歴史や文化に対する理解を深める中で、双方の持ち味や良さを理解し、

「人には誰でも『ふるさと』があり、その土地その土地の歴史や文化には千差万別があるものの、誰にとっても『ふるさと』はかけがえのない魅力に満ちたものなのだ。」という互惠の念を深める。

なお、カリキュラムの総時数が65単位時間であり、改訂後の「75単位時間」との間に10単位時間の差があることにお気づきの方もおられると思います。この10単位時間は、本校の6年生がここ数年取り組んできた国際交流に充てられています。県の国際交流協会を通じて、日本在住の外国人留学生の方などと交流を深めています。

この国際交流も、先ほどの③に帰結する流れの1つなのです。

(4)本日の発表について

年間の活動すべてをトレースしていくことは、時間の制約もさることながら、今回の研修の本旨からやや外れる向きもあります。

また、私自身が年間を通じて全学習過程に関与できたわけでもありません。間接的な見聞では、研修の資料として供するには内容が弱くなってしまいます。

ですから、私自身が学習の場の設定に関わり、かつ直接指導に同行した場面を取り上げて発表させていただきます。即ち、昨年6月24日(水)、校外学習で歴史文化博物館にお邪魔した場面を中心にお話しさせていただきます。

この後の「授業担当者による自由記述」欄も同様です。

(5)見学申し込み

4月、課題設定と選択、グルーピングが済むと、さっそく「長崎調べ」が始まりました。5月の連休明けから本腰が入ってきたわけですが、5月中に現地調査を1回行って「長崎」に対する認識を深めさせておきたいという6年担任の考えでした。

そこで、私の方から当館の加藤さんに連絡を取らせていただき、見学日を決定させていただきました。また、この時点で事前打ち合わせのお願いをさせていただきました。

(6)事前打ち合わせ

見学学習に先だって欠かせないものが、「事前打ち合わせ」です。

加藤さんと改めて連絡を取らせていただき、6月20日(土)13時30分にお邪魔させていただくこととなりました。この日の事前打ち合わせはおよそ14時15分まででした。

この際のおおよその内容については、別添「歴史文化博物館 見学事前打ち合わせ骨子覚え書き」をご覧ください。

なお、この時点で

「実際に子ども達にお話をさせていただくボランティアガイドさんと直接打ち合わせができないだろうか。」

といったご相談もさせていただきましたが、いかんせん見学依頼がやや時間的に迫った時期だったために、ガイドさんのスケジュール調整とが無理だということで断念しました。

1年間で2年分のカリキュラム作業 … という余裕のなさが影響していました。

(7)6月24日の校外活動

①グルーピング

今回の活動では、4月の活動時 … 導入から課題設定まで … に学年を3グループに分けました。具体的には、以下の通りです。

- ・グラバー邸グループ
- ・出島グループ
- ・中華街グループ

②この日の活動計画

	グラバー邸グループ	出島グループ	中華街グループ
9:00	小ヶ倉団地バス停	小ヶ倉バス停 (支所前)	小ヶ倉バス停 (ヨシイ前)
10:00	松ヶ枝 各自散策 ・グラバー園内 昼食：水辺の森公園	新地ターミナル 各自散策 ・出島資料館 昼食：中央公園	新地ターミナル 各自散策 ・館内町・中華街・丸山町 昼食：中央公園
13:00	各自散策 ・東山手	各自散策 ・ 歴史文化博物館	各自散策 ・ 歴史文化博物館
15:00	松ヶ枝バス停 ・自宅近くのバス停 で下車	市役所バス停 ・自宅近くのバス停 で下車	市役所バス停 ・自宅近くのバス停 で下車

※ 3グループの内、歴史文化博物館で学習させていただいたのは「出島グループ」と「中華街グループ」の2グループでした。

③見学の様子



まず、エントランスで挨拶をさせていただきました。

その後、加藤さんから見学上の諸注意をしていただき、ボランティアガイドさんを子ども達に引き合わせていただきました。

子ども達は、さすがに緊張した表情でした。



パネルや展示物など、要所を押しえてボランティアガイドさんの案内が続ききました。

随行していて気づいたことですが、この間、子ども達は4つの学習活動を同時に行う状態になっていました。

つまり、

- i) ガイドさんの説明を聞き取り、その言葉を理解する。(耳からの情報を処理)
- ii) 聴き取った情報をメモする。(要約筆記による処理)
- iii) パネルや展示物を見る。あるいは解説を読む。メモする。(眼からの情報を処理)
- iv) 以上の学習活動を、集団の移動速度に遅れないようこなす。(小刻みな時間制限)

といった活動です。

i は、小学生の見学学習でしばしばネックになる所です。語彙力の差がつかずの原因になりやすいのです。説明の語句や用語が既習範囲を超えている場合、特に発生しやすくなります。

「子どもの思考は鈍って(停まって)いるが、情報は留まることなく出続ける。」という状況になります。

ii は、非常に高度な処理であり、ほとんどの子どもはガイドさんのおっしゃった言葉をそのまま書き写そうとします。理解できないまま耳で受け取った「音」を記録しようとしています。意味の理解は追いついていないことが多いようです。これが、往々にして集中力の途絶につながります。(もちろん、このような学習活動に耐え得る指導を…という視点も必要です。)

iii もなかなか困難ですが、当館の場合、見学路の構造上、説明を聴きながら展示物やパネルを見ることができるのは最前列の10名前後に限られがちでした。

後方の子ども達がパネルや展示物に近づく機会を得るのは、そこでの説明が終わって移動が始まった時です。

iv は、実際にはかなり困難なことでした。遅れないようにしようとする目こぼし、耳こぼしの状態についていくことになります(特に集団の後方にいる子ども達)。

パネルや展示物をじっくり見よう、読もうとするとガイドさんの貴重な説明が聴けません。

「あっちを立てれば、こっちが立たず。二兎を追う者は一兎をも得ず。」

といった場面につながりがちです。

以下の2枚の写真からも、ここまでに述べた状況が見て取れます。



何かしら否定的な所感が列記されているような印象を与えてしまいそうですが、これらはすべて指導者としての自分に対する反省だにご理解いただきたいのです。

今回の見学学習を振り返って全体的に通じる反省があるのです。それは、

「子ども達のレディネス（子ども達はどこまで知っているか?）、見学時点での学習過程の位置づけ・ねらい（子ども達にどこまで教え、どこを伏せておくのか?）、見学施設の特性と学習形態・時間配分（子ども達にどのような活動を保証するのか?）の3点に関する事前共通理解の構築には大いに労力を割くべきである。」

ということです。

今回の見学学習では、指導者の側がその点の労を尽くさなかったことにつまづきやしくじりの原因があるのです。前ページで述べた「4つの学習活動の並行」も、事前に…それももっと早い時点から見学地をよく調査し、事前打ち合わせを重ね、学習の仕方を工夫しておけば相当程度解消できたと思います。

ボランティアガイドさんの熱い思いを空回りさせてしまった点も、申し訳なく思います。

そういった反省は反省として謙虚に受け止めるとして、しかし、もちろん成果もあったのです。座学に留まらず、現地に赴くことで、あるいは実物（実物相当の物）に対面することで得られる貴重な印象、気づき、納得も少なくありませんでした。



敢えて欲を申し上げれば、もっと近づいて、可能ならば実際に手に取って見たり、感じたりできる物が増えると、教育効果が飛躍的に向上するのではないかと思います。

④子ども達の感想

今回の見学学習を通して、子ども達もそれぞれに学び取り、感じ取ったものがありました。見学後に子ども達が記した感想を、数点、紹介させていただきます。

（前略）

先日は、歴史文化博物館で出島のことをたくさん、くわしく教えてくださってありがとうございました。

おかげで、出島のことがよく分かりました。私の調べたいテーマも見つけられたし、とても勉強になりました。本当にありがとうございました。

歴史文化博物館では、たくさんの資料があって、テーマに沿った物がよく見分かりました。これから先、個人で歴史文化博物館に行くこともあると思いますが、その時はよろしく願いします。

（後略）

（前略）

この間はお世話になりました。

Aさん（ボランティアガイドさんのお名前です。）のおかげで、中国のことがものすごく分かりました。私は、最初、この学習をする前は「唐人やしき」という名前すら知りませんでした。

でも、Aさんにいろいろ教えてもらったおかげで、唐人やしきのことがすごくよく分かりました。ありがとうございます。

私は、Aさんに教えてもらったことを生かして、もっと中国のことについて調べたいと思います。

(後 略)

(前 略)

この間は、私たちのために外国との貿易、医学などいろいろなことを教えてくださってありがとうございました。Hさん(ボランティアガイドさんのお名前です。)のおかげで、出島で教わったこと以上に医学、遊びなどどんなことをしていたのかよく分かりました。

私は、Hさんの話を聞いて、外国の人はものすごく技術が進んでいたり、羽ペンで文字を書いたり、砂糖を輸出してきたりしてすごいなあ、もっと出島のことが知りたいなあ、と思いました。

(後 略)

(前 略)

この前は、歴史がよく分かる説明をしてくださってありがとうございました。歴史がおもしろくなってきました。日本に入ってきた物や遊び、昔起こった出来事、ぼくが調べていた出島についてもよく分かりました。

なので、これからは調べたことを生かして勉強に役立てたいです。

(後 略)

授業担当者による自由記述 (活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展)

☆キーワードは「 Communication 」

今回の見学学習を通じて、様々な面で「 Communication 」がもう一つだったなあと反省しています。

まず、何と言っても「活動題」とのCommunication。

その活動を通じて、子どもにどのような感性と達成感と知識を持たせたいのか…教材研究の徹底が必要だと感じました。

そういったことの一環として、「見学の順番」なども考え直す必要があると思いました。これは、研修会の中でご紹介いただいた実践報告でしたけれども、

「まず歴史文化博物館で学習してから現地に赴いた。」

というお話を伺ったからです。なるほど、その方が事前に下地ができるし、そのことによって現地を見学する時の「眼」が違って来るなど納得しました。

見学回数についても、可能な限り考え直す必要があるでしょう。

「見学は1回きり。」

ということになりますと、どうしても詰め込み式の無理が来るようです。

「もう1回行って調べてみたいね。確かめてみたいね。」

という場面は当然の如く出てくるはずです。

しかしながら、実際には時間的な制約や移動にかかる旅費（一般公共交通機関を使うにしても配慮が必要にある場合があります。）、引率人員のスケジュール調整など、反復見学を実現する上で困難な条件も少なくありません。

そうとなれば、「出張ミュージアム」や「出前授業」など、当館の魅力あふれる教育システムを活用させていただくことも考えていかなければなあ、と思いました。

次に、「子ども達」とのC o m m u n i c a t i o n。

今更何をと思われそうですが、当たり前すぎて形骸化しているスキがどこかにあるかも知れません。活動のねらいを共通理解し、めざす高みを共有しながら意義ある成果を目指すためには、子どもの心や力をより適切に捉える自問と努力が重要だと思いました。

それは、総学の場面だけでなく、また教科指導の場面だけでなく、もっと広いトータルな意味での省察と工夫、努力が求められることだろうと思います。

そして、「見学地」とのC o m m u n i c a t i o n。

受け入れ窓口を勤めてくださる方はもちろんのこと、実際に子ども達の前に立ってくださる方、語ってくださる方との直接的な意思疎通も大切だな、そのための早い見通しと活発な動きが必要だなと思いました。

やはり、選定した見学地には可能な限り足を運び、現地に立って子ども達の見学活動を構想したり、周辺を詳細にチェックしたり、現地の方々（極端な話、いつもその辺りで見かける人まで含めて）と情報交換したりして指導者自身の視認範囲を広げておくことが重要だと思いました。

最後に、「指導者」間のC o m m u n i c a t i o n。

突っ込んだ、こだわった授業を実現するための発想、構想、手分け等々、チーム力を最大限に発揮して子ども達への還元率をより高めた授業を創造していきたいなあと思います。追い求めればきりがありませんが、どこをもってよしとするかで子どもに還元されるものの多寡も決まるということも忘れない自分でありたいなあと思います。

…それにつけても、早く担任に戻って思い切りやってみたいと切に思う今日この頃です。

最後に、加藤さん、下田さんはじめ長崎歴史文化博物館の皆様にはたいへんお世話になりました。お陰様で、子ども達も生きた勉強をさせていただくことができました。ありがとうございました。今後も何かとお世話になることがあろうかと思ひます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

総合的な学習 学習計画 (6) 年

活動題	「長崎再発見！熊本新発見！！」 全（22）時間					
目標	○他地域（修学旅行先）の歴史や自然，特色について興味を持ったことを明確にすることができる。 ○興味・関心を持ったことを，自分なりの方法（インターネット，資料，インタビュー）で調べることができる。 ○身近な地域との様々な違いに気づき，他地域について自分が調べたい課題を設定することができる。					
関連	○総「パソコン学習」 ○理「私たちをとりまくかんきょう」 ○国「相手や目的に合わせて書こう」					
課程	月	活 動 内 容	時数	学習の意欲	学び方の習得	教師の働きかけ
意識付け	4	○修学旅行への意識を高める。 ・修学旅行先の資料を提示することにより修学旅行について調べたいことや興味があることなどを具体的に考える。	1	○修学旅行について調べたいことを意欲的に考えることができる。		○子どもが興味を持つような旅行先の資料を準備することにより，意欲を高めさせる。
追究方法	中	○興味を持ったことに対して調べる方法を考え，実行する。 ・インターネットや書籍，手紙や電話など様々な方法をとる。	4	○様々な方法を用いて調べようとする。	○パソコンを有効活用し，必要情報を取り出すことができる。 ○自分の課題をしつかり見つけることができる。	○方法を限定せず，自由に考えさせる。また，自分も考えた方法も考える。 ○どのようなテーマがあるかを例示し，具体的なイメージを持たせる。
課題設定	下	○調べた結果を発表し合い，自分の課題を設定する。 ・身近な地域と比較し，疑問に思ったことや興味を持ったことを課題とする。	2			
追究方法	5	○課題別のグループに分かれ，よりよい課題追究の方法を考える。 ・インターネットや書籍，手紙や電話など様々な方法をとる。	1		○より効果的な調査方法を考えていく。	○様々な調査方法に対応できるように準備する。
課題追究	中	○計画をもとに調べる。 ・人（地元の人，身近な人）との関わり。 ・観光用パンフレットなどの資料活用。	1	○自分にあっただ方法で積極的に調べることができる。	○様々な方法を用いて，早く詳しく調べることができる。	
まとめ	6	○調べたことをまとめる。 ・模造紙やプレゼン等，自分にあったやり方でまとめる。	6		○調べたことを要約し，まとめることができる。 ○メモを正しくとる。	○それぞれのグループに随時アドバイスをする。
発信・交流	中	○調べて分かったことを発表する。 ・グループ別に発表する。 ・さらに知りたいことを考えながら聞く。	2		○メモを正しくとる。	○発表はメモにとりながら聞くことや，答えられない質問などを心がけさせる。
追究計画	下	○発表後に出た質問や，さらに知りたいことについては，調べ直したり，現地に行った時に調べる課題にしたりする。				
まとめ	7	○修学旅行の計画を立てる。 ・活動班や生活班を決める。 ・活動内容を知り，めあてを決める。 ・現地で調べることの確認をする。	1	○話し合いがスムーズにいよう，友達と協力することができる。		○班別に調べるテーマの確認をし，修学旅行が有意義なものになるよう促す。
まとめ	中	○旅行先で調べることをまとめる。 ・現地で調べたことや撮影したものが，すぐに使えるようなまとめを，模造紙等に作成する。	4		○見通しをし，立ってまとめることができる。	○写真を貼るスペースや感想を書く欄などを考えてまとめる。
評価	○他地域について興味を持ったことを明確にし，課題を設定することができたか。 ○自分なりの方法（インターネット，資料，インタビュー等）で必要な情報を的確に調べることができたか。 ○調べた情報を要約し，工夫したわかりやすいまとめができたか。					

備考

総合的な学習 学習計画 (6) 年

活動題	「長崎再発見！熊本新発見！！」 全（26）時間					
目標	○他地域（修学旅行先）の歴史や自然、特色について意欲的に調べることができる。 ○他地域（修学旅行先）に行って調べてきたことを写真やメモをもとに自分なりにまとめ、仕上げるができる。 ○他地域（修学旅行先）の自然や特色、人についての理解を深め、自分の生活に生かそうとすることができる。					
関連	○国「みんなで生きる町」 ○算「計算の見積もり」 ○図「色を選んで（木版で表すと）」 ○家「金銭や物の使い方を考えよう」					
課程	月	活 動 内 容	時数	学習の意欲	学び方の習得	教師の働きかけ
情報 の 収集	9	○他地域（修学旅行先）に調べに行く。 ・調べるテーマ別のグループで目的意識をしっかりとって活動する。 ・発表に使えるような材料は写真に収める。 ・できる範囲でインタビューを行う。		○目的を持って意欲的に調べたり、インタビューをしたりできる。	○目的や用途に合わせた写真を撮ること ○礼儀正しくインタビューできる。	○予想や見通しを立てさせて、有意義な調べ学習になるようにさせる。また、事後の発表に向けて、必要な画像を撮影しておくよう心がけさせる。インタビューの際の礼儀や心構えについても指導しておく。
／ 整理 ・ 分析	10	○調べてきたことをまとめる。 ・事前にまとめていたものに付け加える。 ・写真を効果的に使う。 ・現地でのインタビュー結果も活用する。 ・発表を意識した、わかりやすいまとめを心がける。	16	○何度も修正し、よりよいものにしようとするができる。	○調べてきた内容を画像等を活用し、わかりやすくまとめることができる。	○現地で撮影した様々な画像をフォルダ毎にまとめ、より円滑な活動になるよう支援する。
／ まとめ ・ 表現	11	○中間発表を行う。 ・グループ別に発表する。 ・こがくらっ子発表会を利用する。 ・保護者の方に感想やアドバイスをもらう。 ・よりよいまとめになるよう、アドバイスをもとに修正を加える。	6	○聞き取りやすい発表になるよう何度も練習することができる。	○話し方や身振り等を工夫し、よりよい発表になるようにする。	○子ども対象の発表内容や方法を考えさせる。
	12	○発表をまとめたものをお世話になった方々に送る。 ・手紙を書く。 ・発表会の様子をビデオで送る。 ・感想やアドバイスをもらう。	4	○ていねいに仕上げようとするができる。	○相手が嬉しくなるような工夫を盛り込んだ手紙を書くことができる。	○お礼の手紙や、年賀状を兼ねて送るようアドバイスする。
評価	○他地域（修学旅行先）の自然や特色について現地で意欲的に調べることができたか。 ○調べたことを素材を生かしてまとめ、わかりやすい発表をすることができたか。 ○他地域（修学旅行先）の自然や特色についての理解を深め、自分の生活に生かそうとすることができたか。					

備考

総合的な学習 学習計画 (6) 年

活 動 題	「 活動のまとめをしよう 」 全 (17) 時間					
目 標	<p>○他地域（修学旅行先）について調べてきたことを意欲的にまとめることができる。</p> <p>○他地域（修学旅行先）について調べてきたことを絵や写真・資料を効果的に使い、まとめることができる。</p> <p>○これまでの学習をもとに、自分の生活や考え方を振り返り、よりよい方向に生かそうとすることができる。</p>					
関 連	<p>国「今、わたしは、ぼくは」</p> <p>家「よりよい生活をめざそう」</p>					
課程	月	活 動 内 容	時数	学習の意欲	学び方の習得	教師の働きかけ
整理・分析 / まとめ・表現	1	○感想やアドバイスをもとに再検討する。 ・調査不足の項目や調査要望に基づいた調べ学習を行う。 ・インターネットや、インタビューにより分からないことを調べる。	6	○意欲的に調べ学習やインタビューを行うことができる。	○受けたアドバイスをもとに、よりよいものを作るための工夫ができる。	○子どもだけで調べにくい項目や内容があれば、インターネットのサイト紹介等の支援をする。
	2	○調べ直したものを追加し、まとめる。	7		○さらに詳しい発表になるよう文章をまとめることができる。	○付け加えた点を強調してまとめさせる。また、現地の方とのやりとりも紹介させる。
	3	○最終発表する。 ・グループ別に発表する。 ○長崎・修学旅行・国際交流で学習したことを通して自分を見つめ直す。 ・1年間でどのような力がついたか。 ・どんなことを考えたか。 ・これからどんなことに生かせるか。	2	○聞き取りやすい発表になるよう意欲的に練習し、本番に臨むことができる。	○言葉遣いや表現方法を的確に使うことができる。	○緊張感と目的を持たせた有意義な発表にする。また、お世話になった外部の方も招待し、交流を深める。 ○自分の成長や変化を、これまでの活動の振り返りを通して感じさせる。
評 価	<p>○他地域（修学旅行先）について調べてきたことを意欲的にまとめようとしたか。</p> <p>○他地域（修学旅行先）について調べてきたことを、絵や写真を効果的に使って仕上げることができたか。</p> <p>○これまでの学習をもとに、自分の生活や考え方を振り返り、よりよい方向に生かそうとすることができたか。</p>					

備考

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：長崎よかところ こんなところ	7月～2月	全 35時間
実践校：長崎市立日見小学校		授業担当者：小林輝子		
目標	長崎の歴史を知る活動を通して、郷土への関心を高め、長崎の良さを発見し、発信するとともに、郷土を大切にしたい気持ちを持つようにする。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1, 長崎の文化や歴史について調べる計画を立てる	4	☆親子で行った長崎じげもん度調査の結果を見て、大人に比べ、自分たちの長崎に対する知識の少なさに気づかせる。 ☆「長崎県総おもてなし運動」を紹介し、なぜ観光客を大切にしようとするのかを考え、長崎が観光都市であることに気づかせる。 ☆総合のテーマを発表し、今後の学習の流れをつかませる。 ☆長崎の文化や歴史について調べる計画を準備させる。	①	
2, 長崎歴史文化博物館の見学をする	8	☆ワークシートに目を通しながら、見学のポイントやマナーを理解させる。 ☆見学の振り返りと情報交換をさせ、ワークシートを埋めさせる。	①② 社会「徳川の世はどんな世の中だったの？」	
3, 出張授業を受ける。	4	☆3コーナーをローテーション 出島コーナー 貿易品、解体新書コーナー 上野彦馬コーナー ☆授業のまとめと情報交換の時間をとる。	①② 社会「徳川の世はどんな世の中だったの？」	
4, 長崎の良さを発信する計画（長崎PR計画）を立てる。	2	☆誰に対して、長崎の何を、どうやってPRするかを計画を立てさせる。その際、PRの方法が、PRの内容や対象に適しているかを確認する。 ☆各PR方法のチーム分けをする。	②	
5, PRの準備をする。	15	☆各チームで、PRの準備をする。	③	
6, PR活動をする。まとめる。	2	☆各チームのPR方法に合わせて、PR活動可能な場所や時間を確保し、活動する。 ☆学年発表会を開き、これまでの活動をまとめ、発表する。	④	
評価基準	①郷土に関心を持ち、郷土の良さを発見し、その魅力を発信しようという態度を持つことができたか。（関心・意欲・態度） ②学習したことや調べたことの中から、発信したい長崎の魅力を見つけ、発信する対象にふさわしい方法を考えることができたか。（問題解決） ③PRの場所や時間を確保するために必要な依頼文を書いたり、電話での交渉をしたり、お礼を伝えたりすることができたか。（コミュニケーション力） ④郷土の魅力に気づき、郷土を大切にしたい気持ちを持つことができたか。（自分の生活を見つめる力）			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

- ①知る・・・長崎歴史文化博物館の見学および出張授業を中心に、長崎の魅力を知る段階。
ここでは、小グループに一人のガイドをつけていただくことで、充実した見学ができた。
見学前のガイダンスが大変効果的であった。ワークシートは数回にわたり、打合せや検討の時間を作っていただいた。
- ②深める・・・さらに長崎の魅力を探す、調べる段階。
身近なところにも、長崎の魅力があること、食べ物や観光地だけではなく、歴史や人物も魅力の一つであることに気づき、大人へのアンケートや様々な情報誌から広い視点で長崎を見つめることができた。
- ③考える・・・長崎をもっと知ってもらうために、自分にできることを考える段階。
児童には、自分の得意なことを使って、活動を考えるように伝えた。6つの活動、計13チームが立ち上がった。
- ④実践する
CMチーム（カステラ、グラバー園、皿うどん）
キャンペーン隊（歌と踊りのパフォーマンスで、県内の観光地を紹介）
ガイドブック（リピーターを増やすことを目的に、市内の土産店や博物館に置く）
歌（作詞、作曲にチャレンジ）
キャラクター開発（上野彦馬、出島、くんち）
HP（食文化、観光地を紹介）

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展など）

歴史見学および出張授業について

- 見学やワークシートの作成に関しては、数回にわたり、検討会を開いていただいたことで、当日の見学も充実していた。ワークシートは、欲張りなくらいの量を作成したが、見学だけで埋めることができなくても、休みの日にさらに調べてみようとする児童もおり、結果的には児童の興味を喚起することができたものとなった。
- 出張授業は、自分たちのホームで、ゆっくり本物に触れることができる。五感を使った体験は、その後も忘れることはできないものとなり、その後の活動への動機付けにつながった。

実践の成果

- 児童の個性を活かす活動にこだわった結果、思わないところからの評価をいただき、大満足の実践となった。特に、キャラクター開発では、「ヒコラ」作成者の2名は、将来美術大学に進み、イラストレーターかデザイナーになるのが夢だったらしく、とてもよろこんでいた。
- 今年度は、見学の際にも出張授業の際にも、博物館で目にする写真や展示物、ガイドや講師の方の名前などの情報を事前に紹介しておいたことで、子どもたちの初対面に対する緊張感が少しほぐれたと同時に、情報量の多さによる飽和状態におちいることが防げていたように思う。
- 思い切って交渉した土産店のオーナーからは、子どもたちに「将来の長崎を背負ってたつものだから、何でも協力するよ」という温かい言葉を毎回かけてもらい、肌で郷土を大切にする方々との出逢いがあった。

実践の課題

- 活動の班が13チームと、担任3人では手に負えない状態になった。
- CMやキャンペーンに関しては、当初の計画では、「かもめ広場のテレビで出してもらおう!」、という目標もあったが、クオリティの問題以外に、時間と手続きなどに、担任が関わってあげることができず、せっかくの活動を外に出せないまま終わらせてしまった。

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：長崎へ飛び出そう「長崎歴史散歩」	4月～7月	25時間
実践校：長崎市立村松小学校		授業担当者：田中英明		
目標	自分たちが暮らす長崎の歴史や文化について学ぶ活動を通して、郷土への愛着を深めるとともに、自分で考えて行動する力と活動したことをまとめ発信する力を身につけさせる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 長崎の文化や歴史に興味をもつ	2	○ 長崎歴史文化博物館の移動博物館の展示を見学することで、長崎の歴史や文化の一端に触れ、興味をたせる	(1)	
2 長崎の歴史の概要について知る	3	○ 長崎の歴史について、話を聞いたりワークシート等を使って調べたりして、学ばせる	(2)	
3 自分のテーマを決め、調べる計画を立てる	1	○ 学習したことをもとに、さらに深めていきたい自分のテーマを決め、調べる計画を立てさせる	(1)	
4 テーマに沿った調べ活動を行う	4	○ 自分のテーマを深く掘り下げさせる	(2)	
5 長崎歴史散歩の計画を立てる	2	○ さるくコースや資料をもとに、さらに知りたいこと、疑問を解決するための見学コースをグループごとに考えさせる	(1)	
6 長崎歴史散歩に出かける	6	○ 午前中は自分たちの考えたコース、午後は歴史文化博物館にて、見学活動等を通して、自分の疑問や課題を解決、検証させる (歴史文化博物館の職員に質問に答えていただくコーナーも設置する)	(2)	
7 学習のまとめとして、ガイドブック作りを行う	6	○ 自分のテーマに沿った長崎の歴史・文化についてのガイドブック作りを行わせる	(3) 国語「ガイドブックを作ろう」	
8 活動をふり返る	1	○ できあがったガイドブックを発表し合い、活動をふり返り、2学期の修学旅行に向けて、今回の活動を活かしていくことを伝える。	(4)	
評価基準	(1)長崎の歴史や文化に関心を持ち、自分の追求したい課題を見つけ、その課題に沿って多面的に考え主体的に追求することができたか(課題を設定する力) (2)設定した課題に対する自分の考え方を明確にし、見通しをもって追求し、課題を解決するために必要な情報を交換し、ともに協力しながら活動することができたか。(問題を解決する力) (3)調べたことを分かりやすく伝える方法を選び、効果的にまとめ伝えることができたか。(表現する力) (4)学んだことを基に、他の学習や生活に活かしていこうとすることができたか。(活かす力)			

年間テーマ『地域へ、未来へ、飛び出そう』

- 1学期『長崎へ飛び出そう「長崎歴史散歩」』
- 2学期『県外へ飛び出そう「修学旅行へ行こう」』
- 3学期『未来へとびだそう「卒業活動」』

※歴史文化博物館との連携等

- ・移動博物館
- ・歴史散歩時の博物館展示室見学
- ・歴史散歩時の質問コーナー

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：長崎へ飛び出そう「長崎歴史散歩」	4月～7月	25時間
実践校：長崎市立村松小学校		授業担当者：桑原重久		
目標	自分たちが暮らす長崎の歴史や文化について学ぶ活動を通して、郷土への愛着を深めるとともに、自分で考えて行動する力と活動したことをまとめ発信する力を身につけさせる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 長崎の歴史の概要について知り、長崎の文化や歴史に興味をもつ	4	○ 長崎の文化や歴史について、簡単に話を聞き、資料やワークシート等を使って調べさせる。	(1)・(2)	
2 自分のテーマを決め、調べる計画を立てる	1	○ 学習したことをもとに、さらに深めていきたい自分のテーマを決め、調べる計画を立てさせる	(1)	
3 テーマに沿った調べ活動を行う	4	○ 自分のテーマを深く掘り下げさせる	(2)	
4 移動博物館の展示を見学し、さらに長崎の文化と歴史に興味をもつ	1	○ 長崎歴史文化博物館の移動博物館の展示を見学することで、長崎の歴史や文化の一端に触れ、興味をもたせる	(1)	
5 長崎歴史散歩の計画を立てる	2	○ さるくコースや資料をもとに、さらに知りたいこと、疑問を解決するための見学コースをグループごとに考えさせる	(1)	
6 長崎歴史散歩に出かける	6	○ 各グループごとに自分たちで考えたコースを基に散策する。	(2)	
7 学習のまとめとして、ガイドブック作りを行う	6	○ 自分のテーマに沿った長崎の歴史・文化についてのガイドブック作りを行わせる	(3) 国語「ガイドブックを作ろう」	
8 活動をふり返る	1	○ できあがったガイドブックを発表し合い、活動をふり返り、2学期の修学旅行に向けて、今回の活動を活かしていくことを伝える。	(4)	
評価 規 準	(1) 長崎の歴史や文化に関心を持ち、自分の追求したい課題を見つけ、その課題に沿って多面的に考え主体的に追求することができたか。(課題を設定する力) (2) 設定した課題に対する自分の考え方を明確にし、見通しをもって追求し、課題を解決するために必要な情報を交換し、ともに協力しながら活動することができたか。(問題を解決する力) (3) 調べたことを分かりやすく伝える方法を選び、効果的にまとめ伝えることができたか。(表現する力) (4) 学んだことを基に、他の学習や生活に活かしていこうとすることができたか。(活かす力)			

村松小学校第6学年・年間テーマ『地域へ、未来へ、飛び出そう』

1学期『長崎へ飛び出そう「長崎歴史散歩」』

2学期『県外へ飛び出そう「修学旅行へ行こう」』

3学期『未来へとびだそう「卒業活動」』

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



3人の講師の先生方の紹介です。
子どもたちは、たくさんの展示物を目の前にして興奮気味でした。

クイズで子どもたちの緊張を解きほぐしてくれました。
自分たちが知っている長崎に、さまざまな歴史が刻まれていることをしり、素直に驚く子どもたちでした。



講師の先生方の詳しく、優しい語り子どもたちの目は釘付けです。

展示物に触ることもできました！



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

○ 長崎市とはいえ、地理的な条件のため知っている長崎の有名な場所は「ショッピング」で訪れる商業施設というのが現状でした。

歴史散歩を控え、見学地を選択する段階だった子どもたちでしたが、長崎の歴史も含めて展示物についても知識が少なく、今回の授業はとていい刺激になりました。歴史博物館を見学地に予定していたグループは、特に興味深く参加していました。訪ねた際に詳しく知りたいことを熱心にメモをしていました。

長崎の旧跡に秘められた歴史の奥深さを知る今回の学習でしたが、普段何気なく歩いたり、通り過ぎていた場所にも、深い歴史が刻まれていることを知り、自分たちの街に愛着を持つことができました。

見学前の今回の特別授業でしたが、子どもたちの興味・関心を高め、学習のめあてを持たせるという点で、貴重なきっかけでした。ありがとうございました。

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：長崎へ飛び出そう「長崎歴史散歩」	4月～7月	25時間
実践校：長崎市立村松小学校		授業担当者：桑原重久・山田俊介 朝長浩二（アドバイザー）		
目標	自分たちが暮らす長崎の歴史や文化について学ぶ活動を通して、郷土への愛着を深めるとともに、自分で考えて行動する力と活動したことをまとめ発信する力を身につけさせる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 長崎の文化や歴史に興味をもつ	2	○ 長崎歴史文化博物館の移動博物館の展示を見学することで、長崎の歴史や文化の一端に触れ、興味をたせる。	(1)	
2 長崎の歴史の概要について知る	3	○ 長崎の歴史について、話を聞いたりワークシート等を使って調べたりして、学ばせる。	(2)	
3 自分のテーマを決め、調べる計画を立てる	1	○ 学習したことをもとに、さらに深めていきたい自分のテーマを決め、調べる計画を立てさせる。	(1)	
4 テーマに沿った調べ活動を行う	4	○ 自分のテーマを深く掘り下げさせる。	(2)	
5 長崎歴史散歩の計画を立てる	2	○ さるくコースや資料をもとに、さらに知りたいこと、疑問を解決するための見学コースをグループごとに考えさせる。	(1)	
6 長崎歴史散歩に出かける	6	○ 午前中は自分たちの考えたコース、午後は歴史文化博物館にて、見学活動等を通して、自分の疑問や課題を解決、検証させる。 (歴史文化博物館の職員に質問に答えていただくコーナーも設置する)	(2)	
7 学習のまとめとして、ガイドブック作りを行う	6	○ 自分のテーマに沿った長崎の歴史・文化についてのガイドブック作りを行わせる。	(3) 国語「ガイドブックを作ろう」	
8 活動をふり返る	1	○ できあがったガイドブックを発表し合い、活動をふり返り、2学期の修学旅行に向けて、今回の活動を活かしていくことを伝える。	(4)	
評価 規 準	(1) 長崎の歴史や文化に関心を持ち、自分の追求したい課題を見つけ、その課題に沿って多面的に考え主体的に追求することができたか。(課題を設定する力) (2) 設定した課題に対する自分の考え方を明確にし、見通しをもって追求し、課題を解決するために必要な情報を交換し、ともに協力しながら活動することができたか。(問題を解決する力) (3) 調べたことを分かりやすく伝える方法を選び、効果的にまとめ伝えることができたか。(表現する力) (4) 学んだことを基に、他の学習や生活に活かしていこうとすることができたか。(活かす力)			

年間テーマ『地域へ、未来へ、飛び出そう』

1学期『長崎へ飛び出そう「長崎歴史散歩」』

2学期『県外へ飛び出そう「修学旅行へ行こう」』

3学期『未来へとびだそう「卒業活動」』

※歴史文化博物館との連携等

・移動博物館

・歴史散歩時の博物館展示室見学

・歴史散歩時の質問コーナー

学習活動の軌跡（感想文、作品、ノート、ワークシートなど）



折からの龍馬ブームで、龍馬をテーマに見学計画を立てるグループも多くありました。

職員の方も積極的に声をかけてくださったおかげで、企画展の方にも足を運んでいました。

龍馬の銅像は、大迫力でこの時点で大興奮の様子でした。奉行所ゾーンが龍馬の企画展会場だったことでお白洲の様子を見学した子どもたち（はじめて足を運んだそうです）は、時代劇と同じだったことにとても驚いていました。

そして、本当にこの地に奉行所があったことを知り、感激していました。

常設展ではボランティアガイドさんに優しく、詳しく説明していただきました。

「涼しくて楽しく、そして優しく歴史を学ぶことができます」と話していました。

（本当にありがとうございました。）



その他の

見学地の記事と合わせて完成したガイドブックには、歴史文化博物館の記事も綴じられています。

記事には、「中のものは、全部おすすめです。ボランティアの方々がいっぱいいろいろなことを教えてくださるので、とても勉強になります。」と紹介のコメントが書かれています。



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

○長崎市とはいえ、地理的な条件のため知っている長崎の有名な場所は「ショッピング」で訪れる商業施設という現状は今年も変わらない状態でした。

歴史散歩を控え、昨年度の様子を話すうちに、出前授業の様子を思い起こす児童も多くあり、歴史文化博物館のホームページへと繋げることができました。収蔵物を見ていくうちに、長崎の歴史的な位置づけや西洋との関わりに興味を持ち、実物を見てみたいという意欲が高まりました。

今回は事前の授業はなかったのですが、やはり昨年度と比べると見学グループも多少少なくなり、滞在時間も短めになりました。計画段階からねらいを絞り、歴史文化博物館で探求するテーマを設定し、その導入として出前授業や何らかの関わりを持たせることで、この活動も充実していくと考えます。やはり、本物の持つ魅力を最大限活用したいと思います。

グループごとに見学する時間が異なり、見学のテーマも違うため対応が難しかったと思うのですが、ボランティアの先生方を初め職員の皆様には本当に丁寧に対応していただき感謝しています。この授業ではじめて訪れる児童も多く、「また来たいです。家族と一緒に来ようと思います。」と好評でした。

長崎の旧跡に秘められた歴史の奥深さを知る今回の学習でしたが、普段何気なく歩いたり、通り過ぎていた場所にも、深い歴史が刻まれていることを知り、自分たちの街に愛着を持つことができました。

6年生	教科:総合的な学習の時間	単元名:レッツ・トライ! 将来の夢	9月	2時間(総合的な学習の時間)
	:社会	:江戸時代の長崎・出島		2時間(社会科)
実践校:長崎市立晴海台小学校		授業担当者:西村慎一郎		
目標	総合・長崎歴史文化博物館の仕事内容を理解するとともに、博物館が組織的に多くの人の努力で運営されていることに気づく。 社会・長崎の出島の成り立ちや当時の暮らしぶりについて理解し、歴史への興味を深める。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項		評価・他教科関連
総合的な学習の時間 1. 歴文の組織を理解する 2. 歴文の仕事内容を理解する。 3. 自分の宝物を調べ、調査表にまとめる。 4. 発表する。	1 1	○歴文スタッフ作成のDVDビデオが利用できるよう機材を準備しておく。 ○担任は、歴文スタッフの説明などについての補足説明をする。 ○資料が多くある歴文のよさに触れさせる。 ○子ども達の疑問にスタッフが答える。 ○スタッフと博物館員としての喜びや楽しみなどに触れるようをお願いしておく。 ○子どもに、自分の宝物を持ってくるように事前に指導しておく。「大切な物カード作り」をする。 ○大切な物カードの発表の時には、子どもの活動の様子を歴文スタッフに知らせ、スタッフが活動しやすいように配慮する。		本校6年総合的な学習の時間「レッツ・トライ! 将来の夢」
社会科 1. 踏み絵のレプリカから当時の長崎の町の様子や禁教の様子を学ぶ。 2. 禁教の中、出島が果たした役割や成り立ち、様子について理解する。 3. 質問コーナーを設け、理解を深める。	1 1	○踏み絵のレプリカを手にするによって、博物館の良さを感じさせるとともに、同時に長崎の様子や歴史に触れる喜びを味わわせる。 ○当時の出島の様子を描いた屏風絵のカラーコピー(分割してある)を4グループに配布し、屏風絵を完成するようにさせる。また、できた絵から気づきや疑問が出るように話し合わせる。 ○担任は、子どもが気づきや疑問を出しやすいように板書をしたり、意見を整理したりする。 ○歴文スタッフが子どもの気づきや疑問に答えながら、出島への理解を深める。		
評価 規 準	総合的な学習の時間 (1) 歴史文化博物館は、組織であり、多くの人が色々な仕事をするによって運営されていることがわかる。 社会科 (1) 出島に興味を持ち、絵カードの中から気づきや疑問を挙げるができる。(関心・意欲) (2) 当時の長崎の様子や出島の成り立ち、役割について理解することができる。(知識・理解)			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

びっくりしたのはK君が砂浜で拾ったお皿のかけらが江戸時代の物だったということです。身近な所にも昔の物ってあるんですね。勉強になりました。本当にありがとうございました。

歴文の人たちは、歴史のことにくわしいなと思いました。私は、色々なことを知れてよかったです。ありがとうございました。

私は、出島には男の人だけが住んでいると知り、びっくりしました。いつもの社会の勉強より、歴文の先生がくわしく教えてくれていい学習になりました。ありがとうございました。

2日間、2時間ずつお話をさせていただいてありがとうございました。1日目はかとうさんが話をしてくれ、モニターを使った授業だったのでわかりやすく、「こんなのがあったんだ！」と初めて学ぶこともたくさんありました。2日目の授業は、しもださんが話をしてくれて、私たちの疑問に答えてくれました。出島についてなど、初めて知りました。お二人の授業はわかりやすくてたくさんを学びました。わざわざ私たちの学校に来て、授業をしていただきありがとうございました。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展など）

○打ち合わせの大切さ

依頼する側の、希望を具体的に伝える必要がある。（何を、どの程度まで行うか、また、子どもの実態や、活動をどの程度理解しているのかを明確に伝える）

○歴文スタッフは「歴史のプロ」

出島の成り立ちや役割、当時の長崎の様子は、教科書ではわずかししか載っていない。しかし、スタッフは子ども達がぱくっと食らいつく知識をもつプロである。

○歴文の活用は社会科の学習だけではない。

総合的な学習の時間でも利用できる。今回は本校の単元「レッツ・トライ・将来の夢」の一部として活用した。

○担任の役割は、歴文スタッフ作成と子どもをつなげる接着剤とワープロ機能…板書。

事前の打ち合わせと、回数。（今年度は、総合的な学習の時間と社会科の学習で2回来校していただいた。スタッフへの親しみが強くなった）

子どもが分かる言葉に置き換え板書する。

○発展学習

歴文スタッフの授業後に、次のような出来事（発展学習）があった。

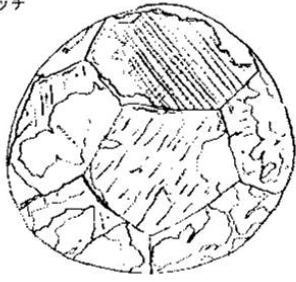
1回目の歴文スタッフの来校後（総合的な学習の時間の学習）数日後に、子ども達は理科の時間に海岸に岩石の採集に行った。その際、子ども達の1人が偶然落ちていた茶碗のかけらを拾ってきた。茶碗のかけらが目に入るということは、1回目の「大切な物カード作り」の活動が生きているのだと感じた。子ども達はもう、その時には2回目のスタッフの来校を知っていたので、相談するつもりだったに違いない。

かけらを拾った子どもは、社会科の学習後に直接、歴文のスタッフに相談をした。担任だったら「わからないなあ。」の一言だったかもしれない。しかし、スタッフの答えは「江戸時代かなー。」。担任や子どもからすると驚きである。子どもも第一発見者として色めきだった。スタッフはかけらを持ち帰り、他の歴文スタッフに調べてもらい、結果を連絡して下さった。

かけらは江戸時代のものであった。驚きである。

この子どもたちにとって、忘れられない発展学習になったに違いないと思う。

大切なモノカード

モノの名前 <u>サッカーボール</u>		モノのスケッチ
数 <u>一回</u>	寸法 たて： <u>30cm</u> 横： <u>30cm</u>	
材質	金属 木 紙 プラスチック ガラス 石 <input checked="" type="radio"/> 布 <input type="radio"/> その他	
付属物（ふくろ、はこ等） <u>ボール入れ</u>		
作者（製造メーカー） <u>?</u>		
収集年月日 <u>2002年</u>	調査年月日 <u>2009年9月15日</u>	
収集先（誰から、どこから） <u>スポーツ店</u>		使い方 <u>ボールをけ、て遊ぶ。</u>
収集方法 <input checked="" type="radio"/> 購入 <input type="radio"/> 寄贈 <input type="radio"/> 交換 <input type="radio"/> 寄託 <input type="radio"/> その他		
収集者氏名 _____		
現蔵者氏名 _____		
旧蔵者氏名 <u>なし</u>		
価格（評価額） <u>2000円くらい</u>		
		大切な理由 <u>お父さんといしょに小さいころからこのボールでサッカーをしていて思い出に残っているから。</u>

男子が作った「大切なものカード」

作成：長崎歴史文化博物館 2009.09

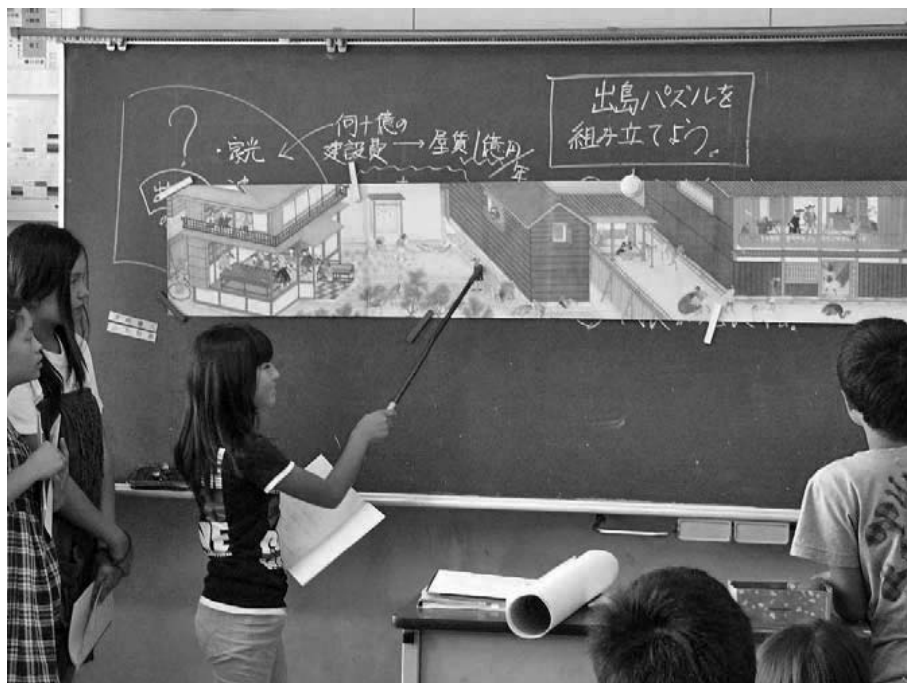
名前 _____



*男子が書いた「大切なものカード」と思い出の「サッカーボール」紹介している場面。



*グループで、出島の「屏風絵パズル」を作っている様子。



*グループで、「屏風絵パズル」の気づきを発表している様子。

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：長崎よかところ来てみんな	5月～11月	40時間
実践校：長崎市立日見小学校		授業担当者：小林輝子		
目標	<p>○自分たちの住む町、日見や長崎のすばらしさを見つける活動や観光地長崎をさらに発展させるために、自分たちができることを考え、発信する活動を通し、郷土愛を育む。</p> <p>○博物館の先生やボランティアガイドさん、伝統を守る地域の方々との出会いから、夢や目標について考える契機とする。</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 学習の計画をたてる。	3	<p>○日見・長崎アンケートを保護者と児童で実施。結果から自分たちが住む町にも知らないことがたくさんあることに気づかせる。</p> <p>○観光地長崎への修学旅行生数の推移をグラフで紹介し、長崎の現状や課題を考えさせ、学習の見通しを持たせる。</p>	(1)	
2 長崎街道を歩き、日見の史跡や歴史の名残を調べる。	3	○日本初の有料道路をみたり、長崎への遊学者の気持ちを想像したりする。	(4)	
3 長崎歴史文化博物館、亀山社中の見学をする。	10	<p>○自由見学と解説付き必須見学での学習の仕方やマナーについて指導。(修学旅行に生かす)</p> <p>○ボランティアガイドさんとの出会いから、郷土を大切に思う人たちがたくさんいることに気づかせる。</p>	(2)(4)	
3 見学を振り返る。	2	○明確になったこと、新しく発見したこと、新たな疑問や課題について記録しておく。		
4 修学旅行で自主研修や各種体験をする。	6	○熊本の歴史、自然との共存を学習したり、郷土を大切にしている人たちと出会ったりする中で、長崎との違いや共通点を考えさせ、自分がアピールしたい「よかところ」を明確にする。	(3)	
5 修学旅行のまとめをする	2			
6 長崎よかところの発信の仕方を考える。	8	○児童がそれぞれに見つけた「よかところ」についてさらに詳しく調べ、劇や紙上発表、クイズやプレゼンテーション、提案文など多様な発信の形ができるよう促す。	(4)	
7 日見っ子発表会および授業参観にて発信する。	4	○発表練習を見せ合い、「よかところ」度合いが感じられるか互いに評価させる。		
8 友だちの発表から学習のまとめをする。	2	○全体の発表から出てきた「よかところ」を確認させ、これまでの学習を振り返る。		
評価 規 準	<p>(1) 郷土の歴史や文化などに関心を持ち、郷土の良さを発見し、その魅力を発信しようという態度を持つことができたか。(関心・意欲・態度)</p> <p>(2) 見学や体験から、郷土の魅力について考え、自分の学習課題を持つことができたか。(関心・意欲・態度)</p> <p>(3) 郷土の魅力が伝わるような発信方法を、伝えたい相手に応じて考え、発信することができたか。(コミュニケーション力)</p> <p>(4) 様々な人との出会いから、夢や目標を持って自分の生き方について考えることができたか。(自分の生き方を考える)</p>			

6年生	教科：社会	単元名：徳川の世はどんな世の中だったの	10月	10時間
実践校：長崎市立日見小学校		授業担当者：小林輝子		
目標	○歴史的資料を見たり触れたりする中で、先人の思いを想像したり歴史の流れを感じたりしながら、長崎や日本の歴史に興味関心をもつことができるようにする。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 大名を支配するしくみについて調べる	1	○大名が幕府に反抗できないようにするための政策を押さえる。		
2 幕府の身分の支配と人々の生活について調べる	1	○幕府に対する不満をそらすための政策を押さえる。		
3 幕府のキリスト教や外国に対する態度について調べる。	3	○禁教令と意図とその影響を押さえる。		
4 鎖国時代の長崎・日見の様子を知る。	3	○出島の生活を描いた絵図をパズルにしたものを完成させる活動を通して、詳しく見ていけるようにする。 ○解体新書（コピー）を模写させたり、踏み絵レブリカに触れさせたりして、昔の人々の苦労や思いを想像させる。 ○貿易品の値段当てクイズを行い、出島に当時の貴重な品々があったことから、江戸時代の長崎が重要な土地であったことに気づかせる。 ○江戸時代の日見の町や人々の生活の様子を絵図などの資料から読み取る。 ○日見の正月行事として行われていた「踏み絵」について押さえる。		
5 町人の文化のひろがりについて調べる	1	○江戸時代の文化が今に受け継がれていることを押さえる。 ○日見芒塚獅子舞について触れる。		
6 新しい学問のおこりについて調べる	1	○長崎遊学者の学習を想起する。(歴文見学の記録をもとに)		
評価 規 準	(1) 幕府が封建的な支配体制を固め、武士の政治を確率したことや町人による文化が栄え、学問が発達したことを理解できる。(理解) (2) 見学や体験から、郷土の魅力について考え、自分の学習課題を持つことができたか。(関心・意欲・態度) (3) 幕府の政策のなかに込められたねらいについて考えることができる。(能力) (4) 歴史的資料を見たり触れたりする中で、先人の思いを想像したり歴史の流れを感じたりしながら、長崎や日本の歴史に興味関心をもつことができたか。(関心・意欲・態度)			

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

【活動の特徴】

☆ 初めての見学も怖いものなし！

博物館見学に際して、ボランティアガイドの方から詳しい解説をしていただく中で、資料や展示物の見方、読み方などを教えていただくことができ、小学生でも一つの資料をじっくりと見ることができました。同時に、長崎のことに詳しく、郷土を大切にする人々との出逢いは、子どもたちにとってすばらしい出逢いでした。展示物や資料の解釈の難しさも、人の声や表情または会話の中から身近なものとして捉えることができました。

☆ 体験に勝るものはなし！

街道を歩くだけでも、「昔の人はすごい！」。解体新書の模写をしては、「ごつか！」、出島での貿易品をさわっては、「まじっ？」と教科書での学習だけでは味わえない感動を得ることができました。とくに出張授業では、出島での生活をパズルにすることで、資料をより深く見る、読む、想像することができ、教材の提供の仕方を自分自身が学ぶことができました。

【学びの発展】

☆ 家族旅行が歴史勉強に！

夏休みや冬休みの家族旅行が、今年はテーマパークから金閣寺や東大寺に、お土産のポケモンが徳川15代将軍一覧表に変化した、という保護者からの話を聞くことができました。長崎の歴史だけではなく、日本の歴史に関心を持つことができたのも学びの発展なのかもしれません。

☆ 保護者の方からのお便り

博物館での見学、出張授業、修学旅行とたくさんの体験を通して、楽しく学習ができたようです。家に帰ると、「歴史クイズ！」がスタートします。

歴史見学の学習ボランティアに参加しました。子どもそっちのけで自分が勉強させていただきました。家に帰って子どもと一緒にボランティアさんの話をおさらいしました。楽しかったです。

【改善点】

☆ ボランティアガイドさんとの打合せは、ていねいに！

見学前に、下見を兼ねてボランティアさんとの簡単な打合せを行い、児童の実態を知っていただいた上で、見学ポイントを確認しました。見学ポイントは4から5カ所と絞ったものの、やはり時間がおしてしまい最後の方は駆け足になってしまいました。見学までにもう一度ワークシートを用いた最終打合せをすることで、短い時間でもポイントを絞って解説していただくことができたのではないかと反省しています。

6年生	教科：総合・社会	単元名：ながさきさるくを楽しもう	11月～12月	17時間
実践校：長崎市立女の都小学校6年		授業担当者：酒井朋子・津田康彦・深堀昭三		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史を学ぶ中で、長崎の果たした役割などに興味を持たせる。 郷土の歴史に興味を持たせ、郷土を愛するきっかけとさせる。 ガイドさんと交流しながら人を通して学ぶ体験させる。 仲間と体験活動することで、コミュニケーション能力を高める。 計画を立て、見通しを持って体験活動を行い、学んだことを発表させる一連の学習法を体験させる。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
社会科 江戸初期の鎖国の完成や出島について学ぶ。	2	教科書や資料集で学ぶ中、長崎の街の始まりについて学ばせる。(図書資料・インターネット利用など)	郷土の歴史に興味を持たせる手立て。 身近な資料の活用。	
社会科 蘭学など西洋の学問が日本に入り、盛んになっていく江戸時代について学ぶ。	2	解体新書など教科書に出てくる資料が長崎歴史文化博物館にあることや著名な人物等を知らせ、長崎の歴史的な位置を理解させる。(市発行の「さるくキッズ」歴史発行のガイドブック参考)		
総合 歴史見学とさるく活動班編成。	1	5コースが設定できたので、児童の興味関心を中心に班を編成。	各コースについてオリエンテーション実施。	
総合 歴史見学とさるく活動。 11月26日(金曜日)	6	乗り合いバスにて歴史へ。 到着、班ごとに担当ガイドさんに挨拶し、活動開始。 9:30ころより11:00くらいまで館内見学。 見学後、それぞれのさるくコースへ出発。 途中昼食を挟み、コース別に活動。 11:00ころより14:30くらいまで活動終了後、最寄りの女の都方面行きバス停付近にて解散。児童と引率教員は学校へ。ガイドさんは歴史へ。 15:30から16:00ころにかけ全員帰校し、下校。 ※さるく途中、名物などがあれば体験的に試食などを可とした。	コースごとに児童の性質や班としての活動レベルを考慮。 各班に教員が付き安全管理などにあたる。	
総合 見学したことやさるくで学んだことを発表できるように整理し、まとめる。	4	班別に学習したことを模造紙などにまとめ、発表の準備をさせる。疑問点は調べるように指示。	発表会に向けて意欲を持たせ、班活動・まとめ整理の方法について体験させる。	
総合 保護者・ガイドさん・歴史の方々に向けて学習発表会を開催12月10日(金曜日)	2	まとめたことを授業参観日にあわせて発表。 班ごとに分担して発表した。 さるく当日、ガイドをして下さった方々に参観していただいた。保護者の多くは感心し、共に学んでいたようであった。後日、家族でさるくコースに出かけたところもあった。発表会の終わりにはガイドさんからも言葉を頂いた。		

評 価 規 準	長崎の歴史に興味や関心が持てたか。 ・ガイドさんから学ぶことで、その人の想いや人柄を感じることができたか。 ・仲間と共に活動し、学ぶことができたか。 ・学んだことを整理し、まとめ、自分の役割を持ち、発表することができたか。
------------------	--

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

今回の学習の大きなねらいは、人を通して歴史を学ばせることです。そこに暮らしている人たち、長崎の街に想いを持っている先輩方と接することで、6年生の子どもたちに人としてのあり方を学ばせたいと考えたのです。特に、女の都地区は市街地から離れており、容易に長崎の歴史にふれられる環境にはない現状があります。

コースの選択数は今回は5つ（一班12人）でしたが、それはガイドさんの人数に合わせたからです。本来は10くらいのコースが希望でした。一つの班の人数が5～6人で、もっと密接に関わりが持てたらと思いました。教員の配置数にも限りがありますのでここが難しいところです。

子どもたちは、非常に楽しみにして当日を迎えました。歴史を見学後、弁当を持って、長崎の街を歩きながら、初めて出会うガイドさんとともに心弾ませながらさきました。歴史について興味を持てたかどうかは、はっきり分かりません。しかし、子どもの頃に友だちとガイドさんと「さるく」を歩いたことは、一生残る思い出となるでしょう。

- これからの課題としては、
- 1 早めに計画し、ガイドさんの人数を確保すること。
 - 2 事前学習として、さるく場所について少し学ばせること。
 - 3 年に2回のさるくを計画し、総合的な学習の時間の柱として位置付けること。

などを考えています。

ほんとうに教員も子どもたちも楽しく充実した学びの時間でした。そして、家庭での大きな話題となったようでした。

6年生	教科:総合的な学習の時間及び社会科	単元名: 総合:わたしたちのふるさと長崎再発見 社会科:「徳川の世」は、どんな世の中だったの?	9月～11月	全39時間
実践校:長崎市立虹が丘小学校		授業担当者:富澤博貴		
目標	社会科:○江戸幕府の支配体制,外国との関係や貿易の取り締まり,人々の暮らし,キリスト教の禁止と鎖国などについて調べ,江戸幕府が外国にどのような態度で臨んだのか,気づくことができる。 ○江戸時代における長崎の役割と,当時の人々の暮らしを知ることができる。 総合:○修学旅行で行った熊本と,自分たちの住む長崎を様々な観点から比較することによって,ふるさと長崎の良さや素晴らしさを発見し,その良さを多くの人々に発信し,今後の自分の生き方について考えていくことができる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
【課題設定】 ○「熊本自主研修」と比較しながら,「長崎自主研修」に取り組むことを知る。 ○長崎の江戸時代における役割について知る。 ○長崎歴史文化博物館の学芸員さんを招き,出島・踏絵について学習する。 ・出島の様子やキリスト教の禁止と鎖国について,資料を見たり,学芸員の方から詳しく聞いたりする。 ○全員で,社会科見学として長崎歴史文化博物館に行き,展示物を見たり解説を聞いたりして,郷土長崎の歴史上の役割について学ぶ。 ○長崎自主研修での課題を設定する。	7 (1) (1) (4) (1)	○長崎自主研修を行うにあたって,熊本自主研修(修学旅行)を想起し,自分の課題について再確認する。 ○鎖国政策・出島の様子・踏み絵・キリスト教の禁止・当時の人々の暮らし,などについて,資料を見ながら,学芸員さんの解説を聞く。 ・幕府は,長崎の出島でオランダからの情報をもとに外国のことを知り,品物や文化を取り入れた。 ・幕府の外国との窓口は,長崎だけに制限した。 ・キリスト教を禁止して,外国との繋がりを制限するほど幕府の力は強かった。 ○児童が直接,絵図資料や実物資料を見たり,学芸員さんの解説を聞いたりしながら,理解できるようにする。	総合的な学習の時間 社会科 (長崎歴史文化博物館の学芸員さんによる出前授業) :第1回 (9月13日) 社会科: 長崎歴史文化博物館見学(学芸員さんによる解説) :第2回 (9月16日) 総合 総合	
【課題追究】 ○長崎自主研修の調査目的地を決定し,見学の計画を立てる。 (計画表の作成)	15 (1) (1) (1)	○長崎自主研修に行くことを告げ,自分の課題を追求できそうな見学場所について,インターネットや図書等を使い,情報を収集させる。 ○見学地について,事前学習を行わせ,見学地で調べることや学習してくることを明確にさせる。 ○見学先で自分の課題に応じた目的に合った学習をしてくるために,長崎自主研修の最終確認をする。		

○長崎自主研修を行う。	(6)	<p>〈見学場所〉</p> <p>① 歴史（人物）班 長崎歴史文化博物館・風頭公園・亀山社中・亀山社中資料展示場・シーボルト記念館・上野彦馬写真館跡・大浦慶旧居・高島秋帆旧宅跡</p> <p>②歴史（建物）班 長崎歴史文化博物館・風頭公園・亀山社中・崇福寺</p> <p>③食文化班 文明堂・福砂屋・蘇州林・新地中華街・アーケード・桃太呂</p> <p>④伝統工芸班 長崎歴史文化博物館（長崎版画体験）・江崎べっ甲店・べっ甲工芸館など</p> <p>④観光地班 グラバー園・大浦天主堂・孔子廟・出島・アーケード (全21カ所)</p>	総合：体験及び見学 歴史文化博物館(学芸員さんたちによる解説と体験活動の支援)：第3回 (10月15日)
○長崎自主研修で見学させていただいた施設に手紙を書く。	(1)	○礼状の書き方の指導をする。見学後、お礼状を作成し、発送する。子供達のお礼状も添える。	国語・書写
○アンケート結果について集計する。	(1)	○インタビューや聞き取り調査・街頭での市民へのアンケート調査の結果をまとめ、資料作成をさせる。	総合
○長崎自主研修で見つけた長崎の良さについて付箋紙に書く。(個人のまとめ)	(1)		総合
○長崎自主研修で見つけた長崎の良さについて意見を交換しまとめる(班でのまとめ)	(2)		総合
○長崎の良さとこれからの長崎について考える。	(1)	○「これからの長崎」について考えさせ、児童の郷土に対する創意工夫のある考えを活かせるようにする。	総合
【表現】	12		総合
○レインボーフェスティバルで、自分が発信したいことを選択し、発信に向けて、グループの友達と発信する内容や方法を決定する。	(1)	○これまで調べたことや、見学で学んだことから、レインボーフェスティバルで発信したい内容を出し合わせ、発信内容の概要を確認させるとともに、発信の方法についてその長所を捉えて選択・決定できるようにする。	
○まとめる活動を行う。	(8)	○受け手が分かりやすい表現に工夫させる。	
○中間発表をし、意見交換を行う。	(1)		
○再検討する。	(1)	○児童相互に各班の発表を聞き合わせ、様々な観点からの比較結果を知ることができるようにする。	

<p>○レインボーフェスティバルで発表する。</p> <p>【自己の生き方】</p> <p>○自分のテーマをまとめ、自分にできることを考える。</p> <p>○意見交換をする。</p> <p>○できることを実行する</p>	<p>(1)</p> <p>5</p> <p>(3)</p> <p>(1)</p> <p>(1)</p>	<p>○発信(発表)のしかたについて、よりよい伝達方法の吟味を行わせる。</p> <p>○全校児童・教職員・保護者・地域住民を相手に発表させ、ふるさと長崎の良さを伝える喜びを実感させる。</p>	<p>総合</p> <p>(常時活動)</p>
---	--	---	-------------------------

<p>評価規準</p>	<p>《 社会科 》</p> <p>【社会的事象への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の政治の様子について意欲的に調べ追究しようとする。 調べたことをもとに、我が国の歴史や伝統を大切に、国を愛する心情を持つようとする。 <p>【社会的な思考、判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府による政治の様子について問題意識を持ち、学習の見通しを持って追究・解決する。 江戸幕府が支配体制を強めていったことを、大名統制や身分制度の確立、鎖国などから考える。 <p>【観察・資料活用の技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の大名統制、身分と人々の暮らし、キリスト教の禁止と鎖国などについて、絵や写真・実物資料・地図・年表・文章資料などを活用して調べる。 調べたことをもとに、江戸幕府の支配体制の様子を分かりやすくまとめたり発表したりする。 <p>【社会的事象についての知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 参勤交代が制度化され、大名統制の仕組みが整い、キリスト教の禁止や海外との貿易統制が行われ、江戸幕府による政治体制が安定したことなどから、身分制度が確立し、政治が安定したことが分かる。 <p>《 総合的な学習の時間 》 地域・郷土・歴史などの横断的・総合的な課題</p> <p>【自分自身に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分なりの課題を明確に持ち、学習に主体的に取り組むことができる。 長崎の良さを発見し、自己との関係を考え実践しようとする。 <p>【学習方法に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 長崎の良さを発見するために、自分の課題を設定することができる。 自分の課題に合った情報を収集・調査・整理・分析することができる。 長崎の良さについて、自分が調べたことを、効果的に表現し発信することができる <p>【他者や社会とのかかわりに関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時と場合、相手に応じた言葉遣いであいさつや感謝の言葉を述べるができる。 友達と協力して課題を解決したり、見学などで、社会の人々と交流しながら活動したりするなど他者と共同して課題を解決しようとする。
-------------	--

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

- 長崎歴史文化博物館の学芸員さんに、今回3回もお世話になった。
- ・1回目は学校での出前授業。貴重な資料等をお持ちいただき、資料を読み解く方法を取りながら、児童にわかりやすいお話で理解を深めて頂いた。
 - ・2回目は、全員で社会科見学で来館した折に、展示物について目的にあった解説を児童に分かりやすくして頂いた。児童はとても興味深く話を聞くことができた。
 - ・3回目は、総合の「長崎自主研修」として、児童が班別に課題（歴史人物・歴史建物・伝統工芸）に応じて来館した折に、児童の課題に合わせた資料の説明・解説をしていただき、充実した学習ができた。また、伝統工芸の体験についても、解説・指導・援助をしていただき、体験活動も充実した。児童も、学芸員さん方との出会いが3回目になるので、親しみを持って、質問なども積極的にすることができた。長崎歴史文化博物館の御協力で、大変充実した学習ができた。
- 学習の発展として・・・歴史の見学の折に、「シュガーロード」のお話を興味深くして頂いたことがきっかけとなり、興味を持って、「シュガーロード長崎スイーツコンテスト・小学生デザインの部」に学級全員が進んで取り組み、全農賞や学校賞を頂くことができた。

6年生	教科：社会 総合	単元名：江戸の文化と新しい学問 長崎歴史文化博物館プレゼンツデリバリーミュージアムで本物を見よう	9月	全10時間
実践校：長与町立長与南小学校		授業担当者：小林輝子		
目 標	① 江戸時代の学問や文化に関心を持ち、進んで調べる。(関心・意欲・態度) ② 博物館見学のマナーやポイントを学び、修学旅行の見学のめあてをもつことができる。(関心・意欲・態度) ③ 新しい学問や文化について、考えたことを表現できる。(思考・判断・表現) ④ 教科書に掲載されている資料の見方やその価値について理解する。(観察・資料活用の技能) ⑤ 町人の文化や新しい学問が、時代の動きに影響を及ぼしたことを理解する。(知識・理解)			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 江戸のまちの様々な場面から当時の社会の様子について話あう。	1	☆教科書に掲載されている資料をデジタル教科書を用い、大型テレビで映して話しあう。 ☆昔の様子を知るためにも、残っている資料や文献が役にたっていることに気付かせる。	4	
2 歌舞伎が人々の間にどのようなように広がったのかを調べる。	1	☆デジタル教科書を活用する。 ☆それぞれの資料が人の手で作られ、大切に残されていることに触れる。	1	4
3 浮世絵が人々の間にどのようなように広がったのかを調べる。	1	☆浮世絵の作成手順を紹介し、技の巧みさに気付かせる。	1	3
4 蘭学が社会にどのような影響を与えたのかを調べる。	1	☆移動博物館で「本物」を見ることができることを伝える。	3	4
5 蘭学はどのような学問かを調べる。	1	☆長崎に西洋の学問を学びにくる人々を紹介し、当時の長崎に最先端の学問や文化が入ってきたことに気付かせる。	5	
6 移動博物館の見学の仕方を知る。	2	☆「本物」「レプリカ」を見ることができることを伝え、長崎に貴重な資料や文献があることを知らせる。	2	4
7 移動博物館の見学と九州国立博物館の見学のポイントを知る。	2	☆教科書「九州国立博物館にある歴史を丸ごと体験しよう」から、博物館での見学のポイントをつかむ。 ☆ワークシートに目を通しながら、見学のポイントやマナーを理解させる。 ☆移動博物館の見学と博物館見学でのマナーやポイントの学習の2部制で行う。	2	
8 振り返る	1			
評 価 規 準	① 江戸時代の学問や文化に関心を持ち、進んで調べることができた。(関心・意欲・態度) ② 博物館見学のマナーやポイントを学び、修学旅行の見学のめあてを持つことができた。(関心・意欲・態度) ③ 新しい学問や文化について、考えたことを表現できた。(思考・判断・表現) ④ 教科書に掲載されている資料の見方やその価値を理解している。(観察・資料活用の技能) ⑤ 町人の文化や新しい学問が、時代の動きに影響を及ぼしたことを理解した。(知識・理解)			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

【児童の感想】

- ☆教科書に載っているものが実際にあったので、感動しました。その中でも「解体新書」がとても印象にのこりました。体のいろんな部分まで細かく書かれてあってすごいなと思いました。
- ☆教科書に載っている写真よりも展示しているものは大きくて分かりやすかったです。実際にさわることでもできて良い経験になりました。
- ☆資料には解説もあって、分かりやすかった。踏み絵を実際にさわることができて、その時のことを想像した。
- ☆実際に本物を見たりさわったりすると、大きさや重さが分かった。当時の人々の様子がより分かって、もっと知りたいなを思いました。
- ☆教科書の資料は一部を切つてあることが分かりました。全部を見るのができて良かったです。修学旅行が楽しみになりました。
- ☆教科書の資料は「別世界のもの」と思っていたけど、本当にあることにびっくりしました。昔の人は、解体新書を見て一生懸命頑張って勉強して、人の役に立ちたいと思っていたのかと思いました。
- ☆加藤さんが言っていたように、本物は特別だし、じっくり見ることが大切だと思いました。
- ☆錦絵がとてもきれいでした。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

【デリバリーミュージアムについて（実践の成果）】

- 子どもの感想を読んで、「本物」の資料が、子どもの想像力をかき立てる大きな役割を持っていることに気付くことができた。
- 教科書掲載の資料が一部分であるのに対し、移動博で全体を見ることができたという「お得感」も子どもたちの満足度を上げることができた。
- 修学旅行への動機付けに十分な学習であった。特に事前学習として見学のポイントを教えていただくことで、子どもたちは目的を持って見学することができた。特に資料の解説文に書かれている「資料の価値」や「発見場所」などに目を向けることができた児童もいた。
- 旅行会社からは、「九州国立博物館は修学旅行には人気がない」という話を聞いていたが、「40分という時間があつという間だった」「もっと見たかった」という児童もおり、今回の学習が効果的であったと感じた。

【その他】

○デジタル教科書の活用

教科書の資料を大型テレビで映し出し、毎時間資料をじっくり読む経験をつんでおくこと、資料をよく見れば昔の様子が分かるという経験が、移動博見学にもつながった。

今後の課題

- 学校の規模が大きいこと、博物館との連携が初めてであったことによるハードルが、予想以上に高く、理解してもらうのに時間を要した。特に規模が大きいことで、会場の体育館が押さえることが難しくなるという面が一番の課題である。
- 総合的な学習の時間に関しても、町独自のカリキュラムから高学年で地域学習ができないため、博物館との連携が社会科の中でしか今のところできない現状がある。カリキュラムの中で博物館との連携ができる部分を見つけていくことが必要である。

小学校の学習と博物館との連携に関する一考察

長崎市立深堀小学校
教諭 加藤 尊城

1 平成 21 年度の取組「長崎再発見！熊本新発見！」から

【カリキュラムにおける教師・学校側のねらい】

① 時数の処理の改善

社会科の歴史学習と、総学のカリキュラム並びに修学旅行の内容をリンクさせて時数を有効に使った学年相応の効果を狙った点は評価できた。

即ち、修学旅行の時数を丸々「行事」で取らず、「社会」や「総学」で取ることで年間**総時数の少なさをカバー**できる。

こういった工夫をしないで安易に「行事」という形で時数処理を積み上げると、最終的に教科等の指導時数が不足し、指導上の諸問題を発生させてしまう。

② 「内外2つの視点」をねらった一石二鳥

具体的には、「長崎再発見！熊本新発見！」というテーマで学習活動本体を「総学」に位置づけ、修学旅行先となる熊本を調査・比較させることでふるさと・長崎に対する認識を深めさせることで**郷土への愛着**を増進させる。（**内**に向かった眼）

また、熊本の歴史、文化、風土、風俗等に触れることで、「日本各地、世界各地にそれぞれの『ふるさと』があり、それはそこに生まれ、暮らす人たちにとってかけがえのないものなのだ。」といった**他者理解**、国際理解へと広げるねらいもあった。（**外**に向かった眼）

「郷土への理解と愛情（**内**）→他の地域に対する理解と相互尊重の精神（**外**）」という流れは子どもの認識経路的に考えても無理がなく、妥当な構成だと思われる。

③ おさえるべき注意事項

ここで注意が必要である。「修学旅行の全時数を『総学』で上げることはできない。『調査・検証』の**時間のみ、『総学』として計上可能**である。」という縛りがあることだ。

従って、「修学旅行」1泊2日、時数計上12単位時間の内、「総学」として計上できるのは「調査・検証」に充てられている時間だけになる。学習問題、学習課題の調査、検証に入らない時間については、あるいは「社会科」（歴史学習の一環として）、あるいは「道徳」（公德心、公共のマナーに関する実践的理解と定着）、あるいは「理科」（科学的知見を広げたり深めたりする見学、実習プログラムが用意されている場合）、あるいは「家庭科」（行程中の食事や入浴の時間全てをとりまとめて家庭生活における基礎技能の実地演習。2単位時間程度）など該当領域を検討して時数計上しなければならない。

【カリキュラムにおける教師・学校側の課題、問題】

① 学習活動の主たるカテゴリー

総時数の少なさをカバーできる点は評価できるが、そもそも「**社会科**」の**総時数**が新学習指導要領では**縮減**されている。従って、不用意に「社会科」で計上することには注意が必要である。

こういった事情により、**学習活動本体を「総学」に置くことは必然**と言えれば必然であった。

② 学習プログラム(カリキュラム)と学校行事等との兼ね合い

修学旅行とリンクさせるアイデアは妥当だったが、2学期の諸行事(小体会、学校行事としての学習発表会など大小様々な取組が目白押し)との関連から、**修学旅行が9月**にならざるを得ない。そうすると、6月半ばまでに「長崎学」的な部分を一段落させ、6月後半には「熊本学」に取りかからないと間に合わなくなる。

この「**駆け足操業的進行速度**」は、子ども達と学習対象が向き合う時間としては少なすぎるのである。この点こそ、この学習プログラムの大きな課題だと言える。

③ 学習対象(教材)との向き合い

長崎にせよ熊本にせよ、調べるポイント、視点を共通化するわけだが、「言葉」、「食べ物」、「歴史上の有名な出来事」、「歴史に名を残している偉人、有名人」を拾い出していくことはそれほど難しいことではない。教師側が資料をちゃんと準備しておけば、おおよそ事はすむのである。

しかし、双方の違い、差異の「背景」にこそ意味がある。ここに目を向けさせ、向かい合わせ、腑に落とすにはそれなりの時間が必要になってくる。「**長崎学**」が浅ければ浅いだけ「**熊本学**」も浅くなり、受け取りがややふやになる分比較も曖昧になり、結果として子ども自身の感動や感銘、達成感に大きな影響が生じる。

④ 学習過程と活動限界のジレンマ

発表は、**11月の学校規模の発表行事**である。

総学の基本的な流れで言えば、この発表は「**第一次発表**」、「**中間発表**」と位置づけられる。この中間発表を受けて形成的評価(方向等の修正補足のための中間評価)を行い、その評価に従って調査検証を補足したりするなどして「**本発表**」へと仕上げていく。

ところが、実際には11月の発表**以降手詰まり**となった。修正補足を行おうにも、熊本に赴く機会は既に無かったからである。この学習プログラムは、**修学旅行が調査検証の大山場**になってしまっているため、**中間発表後の調査検証が極めて困難**になってしまうのであった。

子どものモチベーションの低下は避けられず、内容のブラッシュアップも困難になった。せいぜいインターネットによる情報収集程度が限度となり、**活動のメリハリや情報の旨みが極端に低下した**からである。

⑤ 学習の柱の保障

また、今まで述べてきたとおり時間に追われた取組になったため、総学(生活科でも言われることだが)で重要な柱となる「**人・もの・こと**」との**結びつき**が十分に仕組みなかった。ことに「人」とのつながりは大変重要であり、「人・もの・こと」の中でも最大限の配慮と準備がなされるべきであるとさえ言われる。

生活科では、「**極論すれば、『人』こそが眼目。あとの2つは捨てても良い。**」とまで言われている。

社会科では、「**教材の人間化**」という言葉で言われ、GT(ゲストティーチャー)等外部人材と学習者である子ども達の連結を仕組むことはしばしば採られる有効な有益な手法である。

⑥ 「プログラムの再構成」と「本来のねらい」との整合性

プログラムそのものの構成を見直してみよう、という考え方も当然出て来る。

例えば、1学期の導入から修学旅行まではほとんど「**熊本学**」で行く、という考え方はどうであろうか? 熊本に対する理解を深めさせて中間発表、その後はほとんど「**長崎学**」に切り替えるという方法である。

しかし、中間発表が11月半ばに位置することから、**両者の取り上げバランス**に偏りが生じやすい。また、子どもの認識としては、**先に入ったものが「先入主」となりやすい**。認識上のインプリンティング（刷り込み）が起きる可能性が高い。「熊本を下敷きにして長崎を見るのか、長崎を下敷きにして熊本を見るのか？」という、**ねらいそのものを揺るがす**ような問題をもはらむことになる。そう考えると、やはり長崎から入って熊本へ、という流れが自然なように見える。

しかし…前述した②や③のような課題が改善されない限り、この流れも学習者にとってベストとは言い難い。

【カリキュラムに対する反省点】

○二兎を追う者は一兎をも得ず、なのか？

時数削減 → 「行事」から「教科等」への変換 → 総学の「横断化」による相補的学習構成
(指導時間の名目分散化)

といった意欲的な展望をもった試みであったことは評価すべきだ、と今でも思う。

しかし、その試行過程に関わってみた限りでは、「二兎を追う者は一兎をも得ず」という教訓を想起せざるを得ない結果になってしまった。

「教材の人間化」と「形成的評価を踏まえた補完完成」、「学習の深まりと高まり、広がり、膨らみ」を考え詰めていった時、やはり「観察、追究対象を『長崎』の**一点に絞り込んだ方がベターだったのでは？**」という結論に至る。自分のふるさと・長崎について知識を深め、認識を改め、子ども達のそれぞれが「再発見」の達成感を獲得できるよう取りはからうためにどうするか、だと思ふ。

ただし、これは飽くまで自らが実践に関わった事例での判断であり、学習集団の学習経験とトレーニングの錬度によっては**二点比較型の学習プログラムも決して不可能ではない**ことを付言しておきたい。

○「教材の人間化」という観点から

子どもは、探求課題が「人」と結びついた時、課題との距離感をグッと縮める。探求の思考も「〇〇さんは…」となって、非常に鮮明な認識になる。

そのような「教材の人間化」をより効果的に実現するためには、いくつかのポイントがあると思う。第一に「**関係の安定**」、第二に「**関係の反復**」が挙げられるのではないだろうか。「関係の安定」とは「同じ人と相対すること」であり、「関係の反復」とは「繰り返し相対すること」である。それによって、子ども達は向き合う相手に対して**ラポール(信頼感)を抱く**ようになる。

つまり、もっと有り体に言えば、「同じ人に何度も会って、**教わったり、質問したり、評価してもらったり**することで、相手との関係性が深まり、学習課題により深く馴染む」ということである。

そうとするならば、「観察、追究対象を一点化」することによって、G T (ゲストティーチャー=外部講師)もしくはV S (ボランティアスタッフ)との**望ましい関係を構築**することができるようになる、という考え方も出て来るのであろうか。

○「形成的評価を踏まえた補完完成」という観点から

「観察、追究対象を一点化」することによって、子どもは学習対象とじっくりと向き合うことができる。学校の機器(図書、ICT)を活用した調べ学習も深まり、**複数回に渡って現場、現地に足を運んで調査や検証作業を積み上げる**ことも可能になってくる。(その中で、可能な限りG T、V Sとの出会いを用意することができれば「教材の人間化」も一層促進される。)秋の発表を第一次発表とし、その結果(形成的評価)を踏まえて学習を補完し完成させていくこともできる、ということになる。

少なくとも今回の取組を振り返る限りでは、こういった結論に向き合わざるを得ない。

○「学習の深まりと高まり、広がり、膨らみ」という観点から

このように「観察、追究対象を一点化」することで、「学習の人間化」をより効果的、効率的に促進できる可能性が高まる。調査、検証をきめ細かくし体験度を高めることは、学習を深めさせ、高めさせ、広がらせ、膨らませることになる。ここに至って、初めて子どもは「自分が学んでいる」と**自覚**し、「明らかでなかったこと」と「明らかになったこと」を**区別**できるようになり、学びの中での「達成感」を**獲得**するに至るものと思われる。

【博物館活用に関して】

以上のように、この取組を顧み総括する中で、博物館の活用についてどのような気づき、発見を得たのかまとめておきたい。一見、ネガティブな印象を受けるかもしれないが、以下の記述は飽くまで「**伸びんがために縮む**」という気持ちで書かれたものであり、**関係者の努力や労を否定するものではない**ことを予め申し上げておく。

(1)学校側について考える

①「活用の動機」の共有

前項までで述べてきたとおりだが、様々なねらいをもった試みではあったものの「走行中の車上において部品を交換し、不具合を修理するような進み方」であったことは否めない。

しかし、多くの現場において、教育プログラム、教育手法に手直しを加えようとするれば、現状、そうならざるを得ない要素が多い。

言い訳ではなくはっきりとっておきたいことは、この取組に関して言えば「火中の栗を拾う」という表現も決して大袈裟ではないレベルの試行錯誤を担当が敢えて選択したことを正当に評価すべきだという点だ。それほどの取組ではあったが、一種アクロバティックな進展であったがために、本カリキュラムを通じて子ども達にどこまで投げかけ、何をつかませ、どのような実を結ばせるかという先々のイメージについて**十分な共通認識を得ていたとは言い難かった**というのが正直な状況であった。

博物館活用においても、この弊は少なからず影響した。

② 学習活動のデザイン

前項の点を受けて、もう少し踏み込んだ観察をしてみたい。

「活用の動機」の共有がうまくいかなかったことは、本カリキュラム全体のデザインが未だ流動的だったこと、それ故に「走りながら修理する」離れ業的＝対症療法的＝見通し不足を避け得ない対応（そもそも「先」が茫洋としか見えていない。）がしばしばであった。

その影響は多岐に渡るが、多くの細々としたことを省けば、「**博物館利用の位置づけと以後の展開に関する読みの不鮮明さ**」と言い括ることができそうだ。

イメージの共有ができていない場合に起きる典型的な状況だ、とえばそれまでである。

③ 博物館活用に関することとして

話を「博物館活用」という1点に集約してみたい。

授業者は、学習者に対するねらいや期待する効果、以後の展開に対してある程度のイメージをもった上で博物館利用の意図と位置づけをはっきりとさせておく必要があると考える。

学習段階のどこで、どのような効果を狙い、以後にどのような展開を想定して学習者と博物館を結びつけるの

か、一例を考えてみた。

項目 \ 段階	つかみとして	調査検証	探求の深化
目的	「長崎県ってどんな歴史があるんだろう？」といった県の 歴史的特色 をつかむ。 館の 展示内容のおおよそ をつかむ。	「長崎の〇〇について、詳しく調べたい」といった 具体的な問題、課題 を携えて来館。 (衣食住?) 調査の視点が、絞り込まれている。	「まとめていく中で結果、新しい疑問やもっと知りたいことが出てきた。質問したいことがある」といった 一層踏み込んだ疑問 を抱えて来館。 調査の視点が深まっている(高まっている)。
グルーピング	クラス別に男女混合の活動班	調査対象別にクラス・男女混合活動班	調査対象別にクラス・男女混合活動班
VSとの関係 (VS…ボランティアスタッフ)	オリエンテーション的な指導のみ。 各ブースごと程度にVSに付いていただき、展示内容に関する 簡単な説明 をしていただく。 学習者からは、即応的な質問が出る程度。 この時点では、あまり 踏み込んだ解説、説明等は避けて いただく。	調査対象エリアとエリアに向かうグループ数に応じてVSに適切な人数で着いていただく。 比較的一方的にお話を聴く。 ここまでの学習で抱いた疑問に基づく質問、その場での即応的質問が出る。 この段階では、VSから学習者に向かって「長崎県の歴史」を概括する 訓話等は控えて いただく。	調査事項に関連した展示資料の選定と選定された資料の数やエリアのまとまりを考慮した形でVSに着いていただく。 学習者の質問に答えていただく形を主体とした進め方。 学習者の探求事項に対する 説明は、できるだけ簡潔に 抑える。 心に響く 生き方 に関わったエピソードがあれば、 簡潔に 付け加える。 場合によっては、事象の 関係者等の生き方、考え方 に対する学習者の 受け止めを問う投げかけ も入れてもらう。

成果物	教師が準備したしおりの課題に対する答え。 館内のどこに、どの時代の、どの地区の、どのような情報が展示されているかを確認するワークシートなど。	インターネットや関連書籍、パンフレット等で調べたことを踏まえた疑問、質問に対する答え。	今までの調査で自ら気づいた疑問、中間発表等で参観者や仲間などから投げかけられた疑問、感想などを元にした新たなる疑問、質問を明らかにしたもの。 VSから教わった関連事項を書き留めたもの。
以後の対応	以後の調査、検証で再訪、再々訪を重ねる中で、学習を深めると共に博物館スタッフとの ラポール を深める手立てが必要。	秋の中間発表に向けて分かったことをまとめさせていく。その過程、もしくは発表時に浮上した 「更なる疑問」 を拾い出し、最終まとめのための調査に備えておく。	再調査、再検証によってまとめを深め、最終発表に結びつける。 可能ならば、調査検証段階でお世話になった 博物館スタッフを招き、最終評価を受ける 。その際の評価は 肯定的評価 を中心としながらも、更に深めていくための方向性を示唆するなど 発展的な形 で結んでもらう方が良い。

(2)博物館側について考える

この時の学習活動を通じて、外部講師の協力を得て組み立てる授業のポイントを再考することとなった。

初めにはっきりと言っておきたいことは、外部講師活用の**正否はいつに学習指導者側に鍵がある**という点である。そのような前提に立って、以下を記していきたい。

① 「伝えたいこと」と「伝えるべきこと」の区別

これはどんな時でも言えることだが、「**講師には、熱い思いがある。**」ということである。自分の思いのたけを学習者である子どもにしっかりと投げかけ、受け止めてもらおう、という気持ちがある。その思いがものすごく強い。

しかし、この思いがしばしば**「情報の過多」**を引き起こし、学習者が未消化状態に陥る原因になってしまうことは実に哀しい。また、本来ならば学習が進む中で子ども自身に自得させたい概念や感想まで、GTやVSが子ども達に投げかけてしまう**「勇み足」**が起きてしまう点も残念至極である。

こういった学習者と受け入れ側の**「不本意なすれ違い」**を避けるには、講師と指導者が直接会って細かな打ち合わせを行う以外にないと思われる。「今回の学習の目的」、「学習者の実態」、「指導者が期待する変容や効果」、「直接伝えてほしいことと伝えない、触れないでほしいこと」等々**指導の意図を十分に理解していただく**段階は欠かせない。事前に十分な打ち合わせを行うことにより、学習者である子どもにも**提供される「情報の質と量」を調整する**わけである。

「質」を精選することにより、情報の過剰を防ぐと共に今後の学習の中でつかませたい部分を確保することができる。また、「量」を吟味することによって、次項で触れる壁を除去することも可能になってくる。綿密な打ち合わせ、それは外部を活用する上で不可欠な要諦である。

② 「言葉の壁」の回避、除去

学習者である子どもが未消化を引き起こすもう一つの原因が、「GTやVSとの言葉の壁」、もう少し精密に表現すると「**語彙の差**」であることが多い。

GTやVSには「常識」である概念や用語も、小学生にとってはまだまだ「未知」の領域であることが多い。GTやVSが当たり前のようにして使った言葉1つで、子どもの学習意識は停滞する。「???'と**つまずいた途端、思考が停止する**。丁寧で敏感なGTやVSは子どもの表情や様子からそれを感じ取り、つまずきを取り除こうと説明を加えるが、子どもの頭の中はむしろ混乱する。

これを避けるためには、前項でも述べたとおり、打ち合わせの中で「伝えるべき部分」、「つかませるべき内容」を絞り込んでおく必要がある。量的に絞り込んだ内容を「**どの程度(量と難度)の言葉、語彙で伝えるか?**」と吟味し、「言葉の壁」を除去し回避する準備を入念に重ねることが有効だと考える。

③ 「場の容量 (キャパシティ)」とグルーピングや巡回方法、活動時間

博物館は学校のような建物と比較するとスペースが広く、開放度も高い。しかし、実際の子どもの動きを想定し、展示スペースに重ねていった時、「**意外に狭い**」という認識に辿り着くこともある。

広々としたフロアの中に解説用の機器、疑似体験的な学習をさせてくれる機器があると。ところが実際に子どもが使おうとすると、使用できる人員が1人とか極少数に限定されていたりする。珍しい実物展示がされていても、その展示をケースなどの前で**間近に見ることができるのはせいぜい3名程度**だったりするわけである。

そこで重要になってくるのが、学習者である子どもがどの資料との出会いや接触を必要としているか、という**見通し**である。どの資料、展示にどの程度の人数の子どもが関わろうとしているのか事前につかみ、**グルーピングや巡回方法を整理**しておけば、人垣の外に置かれて資料展示を見ることができない子やGTやVSの声が聴き取りにくい場所で戸惑いながらメモを取らなければならない子を作らずにすむのではないだろうか。課題を共有する少人数グループで活動させ、展示Aが立て込んでいれば資料Bに向かうなど**無為な待ち時間を作らせないような工夫**が必要である。

また、それぞれの資料や展示に関して、子どもの学習を援助、支援する手立てとして「**解りやすい説明書き**」や「**情報の量や質を必要最小限度に吟味し絞り込んだGTやVS**」が用意されていることが学習効果を非常に高めることは言う間でもない。さらに、蛇足ではあるが、これら一連の学習活動を支えるものとして、「**十分な調査検証時間**」の確保も不可欠である。

2 平成 22 年度の取組「徳川の世はどんな世の中だったの」から

【本時における教師・学校側のねらい】

① 生きた地域教材の活用

6年生の社会科学習は「日本史」を中心とするものであるが、中世以降の日本史における「長崎」の役割はことのほか大きい。その長崎で授業を行う指導者としては、**地元ならではの「生きた教材」**を大いに活用したい、と考えるのが自然である。

博物館は非常に魅力ある「宝物庫」であり、これを利用しない手はない。

② 完成された効果的プログラムの活用

この單元における「**出島パズル**」を利用した授業は、歴史文化博物館学習グループの実践の中で磨かれ、確立されてきた**完成度の高いプログラム**である。その効果を生かして、子どもの学習を深めさせようというねらいがあった。

③ 「専門家」との出会い

生活科、総学、外国語活動などでは「地域の人材」が活用されることも少なくない。しかし、博物館スタッフはこういった「地域の人材」とはいささか違った趣を備えていると思われる。即ち、「地域の名人」とは「名人、上手」であるが、**博物館スタッフは「専門家」**である。それも、「**知の専門家**」である。子どもが日常的に触れ合う機会を得やすい人的環境の中には、比較的希有な人材である。

そういった「**日常において希有な人達**」と触れ合うことで、**自分の生活や将来**に対する「今までにはなかった視点や認識」を得るきっかけになればとの思いもあった。それは、単純に学芸員を志すということではなく、「自分も某かの道で『一流』になりたい。『本物』になりたい。」という**自己の人生に対する素朴な目覚め**を与えたいという意味である。

【教師・学校側の課題、問題】

① ワンポイントリリース的授業

今回の取組は、言うなれば「ワンポイントリリース的授業」であり、幕藩体制の基礎を固めた徳川家光の治世を学習した後の**補足的な内容**となっていた。

しかし、単元の学習が終了してからいささかの間が空いていたこともあり、子どもたちの中にこの授業に向かう**必然性が希薄**であった点が影響していたと思われる。子どもたちが**必要とするタイミング**で投入してこそ、このような授業は効果を最大限に発揮するものなのだと痛感させられた。そして何よりも、事前の伏線や事後のより深い押さえ直しが準備されていないため、「一過性の学習」となってしまう。卑俗な言い方をすれば、「**一発企画**」で前後の学習との関連がなく、単元学習、教科学習の全体における位置づけがない授業になってしまった。

全体を踏まえた位置づけがないということは、その授業が**デラシネ(根無し草)**になってしまっているということであり、子どもの学習意識に効果的な影響を与えることは極めて困難だということである。

② 再び思う、「活用の動機」の共有

前項の状況について考えた時、やはり出て来るのは「直接、子どもの指導に当たっている担任が、この授業にどの程度の必要性と必然性を認めていたか？」という反省である。

外部機関や人材を効果的、効率的に活用するためには、**授業者自身のねらいや期待する効果、以後の展開等に対する具体的イメージが必要**になる。それが、授業の重みを決定するのであろうと思う。この取組では、博物館側のG Tが授業という場での子どもとのやり取りにある程度慣れており、そういった**経験を踏まえた配慮や見通し**を持っていた。この点は授業者にとってたいへん**強い追い風**であり、プラス要因であった。

それを生かせなかったのは、活用を試みた教師側の様々な不足であった。前年度の取組もだが、授業のコーディネートに当たった**私自身の非力**が一番大きかった。

3 平成 22・23 年度の取組から考えたこと

① 博物館活用は、有効である！

博物館には、「**本物**」が集積されている。「人・物・こと」のいずれに関しても、「本物」が集積されてい

る。それら「本物」を駆使することで、子どもに良質な授業を提供できる。自己研修も深まる。「**使わない手はない!**」という思いは、今や不動である。

② **外部活用は、「点」ではなく「線」で！理想を言えば、「面」で！**

博物館だけでなく外部の機関や人材を活用するならば、「点」では効果が薄いと実感した。

一発ワンポイントリリース的な使い方ではなく、年間を見通した**複数回の活用**が望ましい。しかも、同じ内容やレベルを反復するのではなく、学習の質や規模を拡大深化していくような形を構想することが重要である。外部の機関や人材とのつながりを安定的に反復することで、子どもの関係性が向上する。

この**関係性の向上**によって、狭い意味での学習…単元学習の知識獲得…に留まらず、学校教育の今日的課題（教材や学習の人間化、キャリア教育、体験的道德指導等々）に迫る重要な効果を実現できる。

③ **活用の主体は、あくまでも指導者！**

今さら言うことでもないが、外部活用授業、見学学習、宿泊学習、修学旅行等といったものは、**指導者の目的意識と構想**で生死が分かたれる。責任重大である。「もうやめましょうよ。」と相手が音を上げるくらいの執拗な…もとい**丹念な打ち合わせ**も必要であろう。

本試案の特徴

長崎市立深堀小学校

教諭 加藤尊城

① 総学の基本学習過程を押さえる。

「課題発見→解決の見通し→調査・検証→まとめ→中間発表（形成的評価）→追加調査・検証→まとめ→まとめ発表（総括評価）」という基本の過程を押さえています。

② 学校行事の取り込み

第6学年は6学年中最も余剰時数が少なく、台風や積雪などの天災に3回以上見舞われると、それだけで時数パンクを起こします。

また、本校の特徴として、第6学年の児童に振り向けられた校内行事や取組における役割が多いです。

（これはこれで今後の改善課題だと思います。）

従って、可能な限り、第6学年に関わる校内行事の取り込みを実施し、負担を軽減すると同時に学習活動の内実を高めていく必要があります。本案はそこを念頭に置いて考えてみました。

③ 校外施設・人材の活用

担任等の校内人材に留まらず、外部の施設や人材の活用は今日的教育課題の1つです。しかしながら、新学習指導要領実施への対応が遅れた学校ほど時数問題に翻弄され、郊外に目を向けた学習活動の展開や充実を「不可能だ。」とする認識に陥りがちです。

教材の人間化を推し進め、子どもたちにとって付加価値の高い授業を実現していく試みを途絶えさせてはならないという考えも盛り込まれています。

④ 今日的教育課題への対応

今日的教育課題は外部活用だけではありません。近年とみに取り上げられる「キャリア教育」や「体験的道德指導」も忘れてはなりません。

それへの対応も視野にとらえられないか考えてみました。

⑤ 教育内容における「個性」の実現

教育内容における学校の独自性、個性の発揮と実現は、前回の指導要領改定以来特に強調されている点です。本校がある深堀地区、並びに比較的近距离にある長崎市中心部は魅力ある歴史的遺物、遺構に満ち溢れた地区です。この特性を活かしたカリキュラムを構築できないか考えてみました。

⑥ 持続可能なプラン

教育における学校の独自性、個性の発揮と実現は、前回の指導要領改定以来特に強調されています。その観点に立ってプランを練ってみましたが、加えて持続性も考慮しました。一見すると手間がかかりそうに見えますが、2年間もループすれば進める手順や方法、ノウハウが定着してきます。立案者の移動以後も持続可能なものになっています。

第6学年 総合的な学習カリキュラム 「ふるさと・長崎再発見」 (平成24年度用試案)

月	4	5	6	7・9	10・11	12	1	2	
基本単元の目標・ふるさと・長崎の歴史や文化に対する知識を広げ理解を深めること、郷土への愛着と誇りの発端を育むこと、郷土の歴史や文化を整理すると共に歴史や文化に対する興味関心を高める。また、学びの過程で外部施設、外部講師との連携を図り、学びの多様な形態を体験させつつ教材の人間性を促進する。最終的には、自己のふるさと「長崎」のみならず、他の地方、地域、国々もそれぞれが「ふるさと」とあり、相互に尊重すべき歴史と文化をもっていることに気づかせる。そして、自ら「次なる歴史の担い手」である自覚を促したい。(郷土愛、先人への感謝、異文化理解、平和共生)	「長崎の歴史」について調べる。4時間(事前指導2時間+授業2時間)	「長崎の歴史」を感じ取ろう！(事前指導1時間+グループワーク2時間)	博物館で「長崎」について調べよう！(事前指導2時間+現地学習6時間)	他の地域を調べてみよう！(事前指導1時間+現地学習6時間)	ふるさと「長崎」と外国との交流の足跡を確かめよう！(事前学習2時間+現地学習6時間)	ふるさと「長崎」と外国との交流の足跡を確かめよう！(事前学習2時間+現地学習6時間)	ふるさと「長崎」と外国との交流の足跡を確かめよう！(事前学習2時間+現地学習6時間)	ふるさと「長崎」と外国との交流の足跡を確かめよう！(事前学習2時間+現地学習6時間)	
単元	「長崎の歴史」について調べる。4時間(事前指導2時間+授業2時間)	「長崎の歴史」を感じ取ろう！(事前指導1時間+グループワーク2時間)	博物館で「長崎」について調べよう！(事前指導2時間+現地学習6時間)	他の地域を調べてみよう！(事前指導1時間+現地学習6時間)	ふるさと「長崎」と外国との交流の足跡を確かめよう！(事前学習2時間+現地学習6時間)	ふるさと「長崎」と外国との交流の足跡を確かめよう！(事前学習2時間+現地学習6時間)	ふるさと「長崎」と外国との交流の足跡を確かめよう！(事前学習2時間+現地学習6時間)	ふるさと「長崎」と外国との交流の足跡を確かめよう！(事前学習2時間+現地学習6時間)	
目標	①「歴史」を、客体ではなく主体として認識するための素地を養う。 ②自らの職業にかけ「本もの」と出会うことにより、自己の将来を見詰める眼を開く。(キャリア教育)	①博物館が収集する実物資料を身近に見ることで、「歴史」の息づかいに触れ、学習意欲を高める。 ②「長崎」が担った歴史的役割や、そこから生まれた文化文物の魅力を味わう。 ③学芸員さんの協働知識に触れることで、「プロ」への畏れを感じ取る。	①博物館の充実した展示内容を意識して、すまめ問題を解いてきた学習問題を解くための情報を集めたり、吟味したりする。 ②公共交通機関や公共文化施設を利用して活動を通して、公徳心を高め実践的に理解を深めさせる。 ③博物館のVSとの交流を通して、「歴史」を愛する「人」の思いに触れる。	①6月の学習で調べたことを課題設定時のカタゴリーを中心として整理し、まとめ上げる。 ②PCを活用して必要な情報を効果的に伝えるための発表形式や表現形態、手順を工夫する。 ③効果や効率を意識し、より良い成果を求め、見通しを立てて協力し合う態度を身につける。	①7月に整理した情報と修学旅行の情報とを対比的に整理し、視座を保つ。 ②表現者としての自己を意識し、発表の内容や形を工夫する。 ③効果や効率を意識し、より良い成果を求め、見通しを立てて協力し合う態度を身につける。 ④他のグループの発表に学び、自己の参考とする。	①11月の学習発表会での経験を活用し、より効果的効果的表現者としての自己を意識し、発表の内容や形を工夫する。 ②実際の歴史や形を工夫し、発表の内容や形を工夫する。 ③効果や効率を意識し、より良い成果を求め、見通しを立てて協力し合う態度を身につける。	①海外文化の窓口であると同時に、日本文化の発信基地であった長崎の姿を意図的に「長崎」が築き上げた歴史が「生命の連鎖」であり、新しい時代を築きあげ、新しい時代を築きあげていく。継承者である自覚をもつ。	①海外文化の窓口であると同時に、日本文化の発信基地であった長崎の姿を意図的に「長崎」が築き上げた歴史が「生命の連鎖」であり、新しい時代を築きあげ、新しい時代を築きあげていく。継承者である自覚をもつ。	
本	①「歴史」を、客体ではなく主体として認識するための素地を養う。 ②自らの職業にかけ「本もの」と出会うことにより、自己の将来を見詰める眼を開く。(キャリア教育)	①博物館が収集する実物資料を身近に見ることで、「歴史」の息づかいに触れ、学習意欲を高める。 ②「長崎」が担った歴史的役割や、そこから生まれた文化文物の魅力を味わう。 ③学芸員さんの協働知識に触れることで、「プロ」への畏れを感じ取る。	①博物館の充実した展示内容を意識して、すまめ問題を解いてきた学習問題を解くための情報を集めたり、吟味したりする。 ②公共交通機関や公共文化施設を利用して活動を通して、公徳心を高め実践的に理解を深めさせる。 ③博物館のVSとの交流を通して、「歴史」を愛する「人」の思いに触れる。	①6月の学習で調べたことを課題設定時のカタゴリーを中心として整理し、まとめ上げる。 ②PCを活用して必要な情報を効果的に伝えるための発表形式や表現形態、手順を工夫する。 ③効果や効率を意識し、より良い成果を求め、見通しを立てて協力し合う態度を身につける。	①7月に整理した情報と修学旅行の情報とを対比的に整理し、視座を保つ。 ②表現者としての自己を意識し、発表の内容や形を工夫する。 ③効果や効率を意識し、より良い成果を求め、見通しを立てて協力し合う態度を身につける。 ④他のグループの発表に学び、自己の参考とする。	①11月の学習発表会での経験を活用し、より効果的効果的表現者としての自己を意識し、発表の内容や形を工夫する。 ②実際の歴史や形を工夫し、発表の内容や形を工夫する。 ③効果や効率を意識し、より良い成果を求め、見通しを立てて協力し合う態度を身につける。	①海外文化の窓口であると同時に、日本文化の発信基地であった長崎の姿を意図的に「長崎」が築き上げた歴史が「生命の連鎖」であり、新しい時代を築きあげ、新しい時代を築きあげていく。継承者である自覚をもつ。	①海外文化の窓口であると同時に、日本文化の発信基地であった長崎の姿を意図的に「長崎」が築き上げた歴史が「生命の連鎖」であり、新しい時代を築きあげ、新しい時代を築きあげていく。継承者である自覚をもつ。	
単	博物館の学芸員さんやGT(ゲスト・ティーチャー)を招聘し、「博物館」の仕事やその意味、意義について語り合ったりする。	前回お世話になった学芸員さんやGTと話し、博物館の役割について語り合ったりする。	長崎歴史文化博物館に出向き、革履履きじつくりと観察し、学習問題の解決を図る。	事前指導として、「ふるさと」の土地の伝統や文化には、必ずその土地の歴史や歴史がある。との意識をもち、それを育てていくこと。	発表形態としては、画面を指示しながらのレクチャー型、劇型、ダンス型など活用する。どの形態にするかは、各グループに任せる。	11月の学習発表会(中間発表)の経験を生かし、短時間で効果的に作業する。	実施会場は、体育館、保護者への謝意を兼ねる。	総学習成果発表(手作りの菓子とお茶)	お世話になった学芸員さんやGTと話し、博物館の役割について語り合ったりする。
元	予め準備した自分の「実物」を活用し、「博物館」の役割や意味、「歴史」に対する向き合い方の基礎などへの理解を体験的に深めさせる。	GTから専門的な解説を聞いたり、実物やレプリカを鑑賞したり、触れたいものがある場合は、GTがもつ魅力を味わう。	長崎歴史文化博物館に出向き、革履履きじつくりと観察し、学習問題の解決を図る。	事前指導として、「ふるさと」の土地の伝統や文化には、必ずその土地の歴史や歴史がある。との意識をもち、それを育てていくこと。	発表形態としては、画面を指示しながらのレクチャー型、劇型、ダンス型など活用する。どの形態にするかは、各グループに任せる。	11月の学習発表会(中間発表)の経験を生かし、短時間で効果的に作業する。	実施会場は、体育館、保護者への謝意を兼ねる。	総学習成果発表(手作りの菓子とお茶)	お世話になった学芸員さんやGTと話し、博物館の役割について語り合ったりする。
70	予め準備した自分の「実物」を活用し、「博物館」の役割や意味、「歴史」に対する向き合い方の基礎などへの理解を体験的に深めさせる。	GTから専門的な解説を聞いたり、実物やレプリカを鑑賞したり、触れたいものがある場合は、GTがもつ魅力を味わう。	長崎歴史文化博物館に出向き、革履履きじつくりと観察し、学習問題の解決を図る。	事前指導として、「ふるさと」の土地の伝統や文化には、必ずその土地の歴史や歴史がある。との意識をもち、それを育てていくこと。	発表形態としては、画面を指示しながらのレクチャー型、劇型、ダンス型など活用する。どの形態にするかは、各グループに任せる。	11月の学習発表会(中間発表)の経験を生かし、短時間で効果的に作業する。	実施会場は、体育館、保護者への謝意を兼ねる。	総学習成果発表(手作りの菓子とお茶)	お世話になった学芸員さんやGTと話し、博物館の役割について語り合ったりする。
概	予め準備した自分の「実物」を活用し、「博物館」の役割や意味、「歴史」に対する向き合い方の基礎などへの理解を体験的に深めさせる。	GTから専門的な解説を聞いたり、実物やレプリカを鑑賞したり、触れたいものがある場合は、GTがもつ魅力を味わう。	長崎歴史文化博物館に出向き、革履履きじつくりと観察し、学習問題の解決を図る。	事前指導として、「ふるさと」の土地の伝統や文化には、必ずその土地の歴史や歴史がある。との意識をもち、それを育てていくこと。	発表形態としては、画面を指示しながらのレクチャー型、劇型、ダンス型など活用する。どの形態にするかは、各グループに任せる。	11月の学習発表会(中間発表)の経験を生かし、短時間で効果的に作業する。	実施会場は、体育館、保護者への謝意を兼ねる。	総学習成果発表(手作りの菓子とお茶)	お世話になった学芸員さんやGTと話し、博物館の役割について語り合ったりする。
車	予め準備した自分の「実物」を活用し、「博物館」の役割や意味、「歴史」に対する向き合い方の基礎などへの理解を体験的に深めさせる。	GTから専門的な解説を聞いたり、実物やレプリカを鑑賞したり、触れたいものがある場合は、GTがもつ魅力を味わう。	長崎歴史文化博物館に出向き、革履履きじつくりと観察し、学習問題の解決を図る。	事前指導として、「ふるさと」の土地の伝統や文化には、必ずその土地の歴史や歴史がある。との意識をもち、それを育てていくこと。	発表形態としては、画面を指示しながらのレクチャー型、劇型、ダンス型など活用する。どの形態にするかは、各グループに任せる。	11月の学習発表会(中間発表)の経験を生かし、短時間で効果的に作業する。	実施会場は、体育館、保護者への謝意を兼ねる。	総学習成果発表(手作りの菓子とお茶)	お世話になった学芸員さんやGTと話し、博物館の役割について語り合ったりする。
略	予め準備した自分の「実物」を活用し、「博物館」の役割や意味、「歴史」に対する向き合い方の基礎などへの理解を体験的に深めさせる。	GTから専門的な解説を聞いたり、実物やレプリカを鑑賞したり、触れたいものがある場合は、GTがもつ魅力を味わう。	長崎歴史文化博物館に出向き、革履履きじつくりと観察し、学習問題の解決を図る。	事前指導として、「ふるさと」の土地の伝統や文化には、必ずその土地の歴史や歴史がある。との意識をもち、それを育てていくこと。	発表形態としては、画面を指示しながらのレクチャー型、劇型、ダンス型など活用する。どの形態にするかは、各グループに任せる。	11月の学習発表会(中間発表)の経験を生かし、短時間で効果的に作業する。	実施会場は、体育館、保護者への謝意を兼ねる。	総学習成果発表(手作りの菓子とお茶)	お世話になった学芸員さんやGTと話し、博物館の役割について語り合ったりする。
位	予め準備した自分の「実物」を活用し、「博物館」の役割や意味、「歴史」に対する向き合い方の基礎などへの理解を体験的に深めさせる。	GTから専門的な解説を聞いたり、実物やレプリカを鑑賞したり、触れたいものがある場合は、GTがもつ魅力を味わう。	長崎歴史文化博物館に出向き、革履履きじつくりと観察し、学習問題の解決を図る。	事前指導として、「ふるさと」の土地の伝統や文化には、必ずその土地の歴史や歴史がある。との意識をもち、それを育てていくこと。	発表形態としては、画面を指示しながらのレクチャー型、劇型、ダンス型など活用する。どの形態にするかは、各グループに任せる。	11月の学習発表会(中間発表)の経験を生かし、短時間で効果的に作業する。	実施会場は、体育館、保護者への謝意を兼ねる。	総学習成果発表(手作りの菓子とお茶)	お世話になった学芸員さんやGTと話し、博物館の役割について語り合ったりする。
時	予め準備した自分の「実物」を活用し、「博物館」の役割や意味、「歴史」に対する向き合い方の基礎などへの理解を体験的に深めさせる。	GTから専門的な解説を聞いたり、実物やレプリカを鑑賞したり、触れたいものがある場合は、GTがもつ魅力を味わう。	長崎歴史文化博物館に出向き、革履履きじつくりと観察し、学習問題の解決を図る。	事前指導として、「ふるさと」の土地の伝統や文化には、必ずその土地の歴史や歴史がある。との意識をもち、それを育てていくこと。	発表形態としては、画面を指示しながらのレクチャー型、劇型、ダンス型など活用する。どの形態にするかは、各グループに任せる。	11月の学習発表会(中間発表)の経験を生かし、短時間で効果的に作業する。	実施会場は、体育館、保護者への謝意を兼ねる。	総学習成果発表(手作りの菓子とお茶)	お世話になった学芸員さんやGTと話し、博物館の役割について語り合ったりする。
間	予め準備した自分の「実物」を活用し、「博物館」の役割や意味、「歴史」に対する向き合い方の基礎などへの理解を体験的に深めさせる。	GTから専門的な解説を聞いたり、実物やレプリカを鑑賞したり、触れたいものがある場合は、GTがもつ魅力を味わう。	長崎歴史文化博物館に出向き、革履履きじつくりと観察し、学習問題の解決を図る。	事前指導として、「ふるさと」の土地の伝統や文化には、必ずその土地の歴史や歴史がある。との意識をもち、それを育てていくこと。	発表形態としては、画面を指示しながらのレクチャー型、劇型、ダンス型など活用する。どの形態にするかは、各グループに任せる。	11月の学習発表会(中間発表)の経験を生かし、短時間で効果的に作業する。	実施会場は、体育館、保護者への謝意を兼ねる。	総学習成果発表(手作りの菓子とお茶)	お世話になった学芸員さんやGTと話し、博物館の役割について語り合ったりする。
備	予め準備した自分の「実物」を活用し、「博物館」の役割や意味、「歴史」に対する向き合い方の基礎などへの理解を体験的に深めさせる。	GTから専門的な解説を聞いたり、実物やレプリカを鑑賞したり、触れたいものがある場合は、GTがもつ魅力を味わう。	長崎歴史文化博物館に出向き、革履履きじつくりと観察し、学習問題の解決を図る。	事前指導として、「ふるさと」の土地の伝統や文化には、必ずその土地の歴史や歴史がある。との意識をもち、それを育てていくこと。	発表形態としては、画面を指示しながらのレクチャー型、劇型、ダンス型など活用する。どの形態にするかは、各グループに任せる。	11月の学習発表会(中間発表)の経験を生かし、短時間で効果的に作業する。	実施会場は、体育館、保護者への謝意を兼ねる。	総学習成果発表(手作りの菓子とお茶)	お世話になった学芸員さんやGTと話し、博物館の役割について語り合ったりする。
考	予め準備した自分の「実物」を活用し、「博物館」の役割や意味、「歴史」に対する向き合い方の基礎などへの理解を体験的に深めさせる。	GTから専門的な解説を聞いたり、実物やレプリカを鑑賞したり、触れたいものがある場合は、GTがもつ魅力を味わう。	長崎歴史文化博物館に出向き、革履履きじつくりと観察し、学習問題の解決を図る。	事前指導として、「ふるさと」の土地の伝統や文化には、必ずその土地の歴史や歴史がある。との意識をもち、それを育てていくこと。	発表形態としては、画面を指示しながらのレクチャー型、劇型、ダンス型など活用する。どの形態にするかは、各グループに任せる。	11月の学習発表会(中間発表)の経験を生かし、短時間で効果的に作業する。	実施会場は、体育館、保護者への謝意を兼ねる。	総学習成果発表(手作りの菓子とお茶)	お世話になった学芸員さんやGTと話し、博物館の役割について語り合ったりする。